

会 場 大ヶ洞公民館

日 時 平成 27 年 1 月 28 日 (水) 午後 7 時～午後 9 時

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

今、新庁舎について、色々話を聞きました。非常にすばらしい新庁舎じゃないかなと思います。ただし、考えてみなければならぬ事があると思います。

まず、下呂市が今後、どうなっていくのだろう。10年、20年、30年後・・・。この先、人が減るという事は、全国的に仕方ないといえそうですが、少しでも食い止めるようにしていかないと、下呂市というものがなくなってしまいます。いろんな人たちの意見をよく聞いて進めていかなければならないと思います。そのためには若者たちが元気出る事とか、安心して子供を産んで、元気な下呂市をこれから創ってってもらわなければならないと思います。そのためには、補助金だけを出せばいいとかいう問題ではないと思います。子育て広場など、コミュニケーションをとれるような施設をつくってもらいたい。また、老人福祉施設の整備などのようなことの方が、大事だと思います。耐震について言われましたが、庁舎がつぶれるような地震が来たら、みんなつぶれることになる。若者たちが重荷を背負うような政策はダメではないかなと。人が減ってくれば、それなりの施設をつくればいいかと。最後の最後に庁舎の建設を考えていけばよいと思います。先をみて考えていただきたい。

○市民

下呂市のホームページの資料を見てきましたが、実質的には一本化がなくなったかと思います。今なぜ、新庁舎の建設かという事です。ホームページには、一本化の定義がいろいろ載っていましたが、実質的に、一本化がなくなった今、他に、優先してやらなければならない事があると思います。下呂市が消えてなくならないようにするためにはどうしたらいいのかという事が先ではないかと思います。庁舎整備については、そのあとで考えればよいかと思います。

安心安全なまちづくりの観点からいいますと、農林土木が総合庁舎に入ることになったことは非常にいいことだと思います。新庁舎が、下呂病院の跡地に建つという事や、また農林土木が病院跡地のその建物に入ったとするならば、防災面からは好ましくないのではないかと思います。河川氾濫に関するハザードマップや土砂崩れに関するハザードマップをみると、浸水、下呂大橋の観点、土砂災害の警戒区域であるという事、加えてアンダーパスの観点から旧下呂病院跡地は安全ではないと思っている。また、農林土木が入るとい事は県との連携の部分でも非常によいのではないかと思う。

2つ目に財政的に安定したまちづくりの観点からいいますと、下呂市に金を落としてもらうようなそういう施策はないかと。今回、下呂市にとって病院跡地を取得するとい

う事は非常にチャンスではないかと思えます。下呂が生きていくためには、基本的には観光しかないのではないかと考えている。なんとか、あの土地を観光施設にというご意見もあったようですが、下呂病院跡地は、売りによっては、観光客を集めることができるかもしれない。

住みよいまちづくりという観点では、老人ホームの建設や、他の県などの合併特例債の使い方を見てみると、他にインフラ整備などに使う事などもできるのではないかと考えています。それから若者の就労場所の確保等の問題などもあるのではないかと。こういったようなまちづくりの後に、庁舎整備をするべきかと思えます。わたしは一本化せよという声をあまり聞いたことがない気がする。身の丈に合った庁舎整備をとと思えますが、現状のままであってほしいと思っています。

●市長

人口減少問題は大変大きな問題です。第2次総合計画の施策の中で人口問題を取り上げております。これと併せて同時に地方創生の中で、下呂市版の戦略を皆さんのご意見をうかがいながら作成していきたいと思っています。近々の問題である人口問題では、とにかく下呂市で安心してお産をしていただくということも要因にあると思えます。また、雇用に関しても課題ではありますが、これに関しましてもいろんな施策を行っています。下呂温泉病院での医師の増加、確保に引き続き努力してまいりたいと思っています。介護施設につきましても、地方創生の中で皆さんの知恵をおかりしながら考えていきたいと思っています。

安心安全なまちづくりについては、下呂市では、平成22年から観光計画というものを作っています。その中で相乗効果も出てきております。下呂温泉に宿泊された方が、萩原の天領朝市、小坂の滝めぐり、金山の筋骨めぐり、馬瀬にも来ていただいたお客さんが立ち寄られているということで、相乗効果が出ています。さらに、温泉ばかりでなくそれぞれの地域にある他のものを生かした、地域づくりを行っていくことも大切だと思っています。また、各振興事務所に地域力向上支援員を置き、地域おこし協力隊を入れるなど地域づくりにも力を入れています。

●総務部長

旧下呂温泉病院の跡地の自然災害については、飛騨川の洪水による浸水おそれ、また冠水のおそれがある場所という事、イエローゾーンの土砂災害警戒区域であることは確かでございます。そのための方策として、まず、現在、下呂大橋の耐震については事業に着手しています。冠水の原因となる芦谷については、分流の工事による新たな水路の設置を行うようにしています。経費につきましては、非常にお金のないときに大変という事ではありますが、そのような中で庁舎の整備につきましては、補助金や有利な起債等はほとんどなく、合併特例債を利用して整備したいと考えております。合併特例債が平成31年度のタイミングをすぎますと一般財源での対応となります。当然、基金を積んでという事もありますが、合併特例債が活用できるこの時期に建て替えをしたらというのが市の考えであります。一本化することによって、組織、職員の数も見直します。施設の分散による水道光熱費などの経費につきましても、一本化することで1千万ほど削減できると試算しています。将来の負担を考えますと、この時期に庁舎整備を行いたいと

考えております。

○市民

資料 P12 の整備費用については病院跡地の用地取得費も含めると整備費用がどのくらいになりますか。また、振興事務所が市の計画通りになったとき、縮小されることでの市民サービスのデメリットは何ですか。並びにそれに対する解決策はありますか。

●市長

旧下呂温泉病院跡地の購入につきましては、基金が積み立てられてきているため、用地取得費用は新たに調達がないためこの数字には含まれていません。

●経営管理部長

市民の皆様の毎日の生活に負担がかからないよう、総合的な窓口という事で考えています。建設費用や小さな補修事業のような事などにつきましては、本課へすべて集約をしていきます。直接市民の皆様のご生活に関わることににつきましては、総合的な窓口という事で維持をしていきたいと考えています。

○市民

農林土木が総合庁舎に入るという事は良いと思います。ただ、場所が問題であると思います。なぜ、下呂温泉病院跡地なのか。同じお金をかけるなら観光客が来てもらえるような工夫をしてつくれば良いのではないかと。

●市長

庁舎だけでなくテナントなども作ったらどうかとのご意見もあります。3月の議会で承認がいただけましたら、この資料のスケジュールにもありますがワークショップなどで市民と一緒に考えていきたいと思っています。市役所機能だけでないものも聞けたらと思っています。

○市民

災害という事に対して、なぜ、断層のそばにしたのかという事。委員会の議事録は、阿寺断層に関してはあまり議論されていないように感じています。耐震化したとしても、周囲が崩壊すれば動けなくなる。一本化はいいと思うが、場所について考えてもらった方がいいと思う。しっかり調査したのかということです。

●総務部長

おっしゃられる通り、下呂、萩原市内にはたくさんの断層があります。どの場所が安全なのかは専門家でも特定することはできません。場所の選定の経緯の中では、経費を抑えるという事が課題の中にありましたので市有地の中から、絞りました。地震も想定しながら災害に強い庁舎を造っていかねばならないということで考えております。

○市民

あえて断層の上に建てるというのはいかなるものかと。勉強してもらいたいと思う。

●市長

ここは絶対安全という事がわかればありがたいのですが、自然災害というのはどこで、いつ起こるのかは想定ができないという事があります。

○市民

落橋し孤立などを考えると西部より東部の方が人口も多く安全な場所が多いと思われる

る。周囲が崩壊したらという事も考えてほしい。

●市長

孤立する心配も持っているが大きな地震が来ればそれは西部も東部も同じなのではないかと。

○市民

今日の段階では決定したことでは無いと思われるが、この説明会の意見は今後反映されるのか。今年の3月に議会で議決されると決まってしまうのが、白紙となることもありうるのか。

●市長

3月に上程する条例、予算について3分の2以上の賛成がないと否決されたという事になります。白紙になることもあります。賛成されれば、このスケジュール通り進めていきます。議会で否決されると合併特例債の利用は、間に合わなくなります。

○市民

公式に発表されほぼ決まっているようなものをこのタイミングで説明するのはいかなものか。災害を絡めて一本化の説明をされたが、落橋の話など分散されているほうが、メリットが多いと思われる。合併特例債は耐震には利用できないのか。

●総務部長

耐震化の費用を先に説明します。

それから、橋が落ちてしまうと、災害対応に影響があります。大きな問題であるため必要なところから補強工事を実施してます。合併特例債については耐震工事にも利用できます。

○市民

新庁舎ありきの説明になっているが、萩原での説明会で提案された候補地などでの試算はおこなったのか。5年、10年後の歳入歳出を振興事務所ごとに試算しているのか。

●経営管理部長

5年、10年後のシミュレーションしています。不足する財源を捻出するため庁舎を集約することでスリム化し、管理職を減らすなど人件費の削減に取り組んでいます。

○市民

もどに戻ってしまうが、議会がOKであれば造るというのには懸念がある。過去に水に浸かったところに建てても大丈夫なのか、もっと大切なところにお金を使って欲しい。

●市長

河川改修も進んでおり、なるべく洪水などの災害を受けないように考えている。有利な財源を利用することで将来世代に負担をかけないようにするためにも、今やるべきであると考えている。

○市民

反対意見を心に入れて進めて欲しい。

●市長

方針を打ち出した以上はご理解を求めて進めていきたい。

以 上

会 場 あさんず会館

日 時 平成 27 年 2 月 3 日（火） 午後 7 時～午後 9 時

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

この資料の中の終わりに、行政運営からみた課題と挙がっておりますが、住民目線から見た課題があります。1つは人口減少は全国的な問題であるが、下呂においては温泉の観光客が3万人減するという見込みで、宿泊者一人あたり2万円と換算すると6億円の減、米で言えば5万俵位も減ることになるわけです。減収が大きな課題となっております。

もう1つは老人介護で、この頃子どもが帰らず実家の周りの草取りもせず、財産放棄し、親の面倒もみないような傾向がうかがえる。内輪もめもあるし。老人ホームも待機状態なうえ、年金はだんだん減らされ7～8万円という生活で家族闘争も否めない状況で、これが住民からみた課題であるがいかが思いますか？

●市長

私も、そうした課題があると感じています。

○市民

庁舎をつくることによって、私が今あげた2つ挙げた問題が、どのようなアプローチになるのか。フォローの風が送れるのか。具体的に教えていただきたい。

●市長

昨年は、自然災害が多く発生し、台風、御嶽山の風評被害、大雪などがある中で、下呂温泉の宿泊客も100万人も割るだろうと言われ、マイナスの経済効果が大きいとは思っていますが、現在観光計画により市内各地の観光資源が発掘されることで、下呂市に新しい魅力により多くの観光客の皆さんが来ていただけるということでありました。

人口問題は、「全国一律そうだから仕方がない」というわけにはいかない。地方創生といった中で、第2次総合計画なども併せて戦略を立てていかななくてはいけないと思っています。

●経営管理部長

庁舎を造ることによって直接解決することはなかなか難しいとは思っておりますが、3ページの資料にもありますが、人口の問題等をクリアするためには、下呂市が存続しなければいろいろな策が打てないというわけであり、組織を見直す中で、職員が減るとサービスが低下するので管理職を減らすことを考えており、その中でのひとつが庁舎の一本化を目指しているわけであり、効率的にするためのひとつの手段として考えており、市長の判断のもと進めています。現在は、第2次総合計画にもありますが、人口問題、行財政改革、地域づくりを大きなプロジェクトとして考えており、地方創生という法律にも基づいて計画も総合計画とマッチしておりますので、いろいろな角度から計画をつくり取り組んでい

きたい。庁舎整備が直接課題をクリアできるというわけではありませんが、ひとつの道具として考えております。

○市民

私が申し上げている質問は、そんな抽象的なことを聞いているのではなく、毎月5万俵減っている、尻に火が付いているときに、具体的に申し上げられないというのはどうなのでしょう。庁舎を造れば必ず附帯設備があつて、老人が温泉に入れるとか、観光客が喜ぶとか私たちにわかる説明をしておかないと。民間では、売り上げを伸ばすときに商品の販売計画を作るわけで、事務所を造れば販売が伸びるわけではありません。庁舎を造れば観光客数が伸びるとか、老人問題が解決するとか結び付いていないのではないのでしょうか。

●総務部長

今の庁舎の耐震補強を図って造れば経費は少なくすむことも考えられます。当初の経費は安く抑えられるわけではありますが、いずれどこかで庁舎を建てなければならない、その時には合併特例債を使うことはできず庁舎を建てる補助金もないという時に、少しでも良い起債があるときに建てておくことで将来的な負担を減らすことによって市民の皆さんに還元できることがあります。

将来、少ない職員数で知恵を出し合っていくことで下呂市のために取り組んでいかなければならない。職員が一体となって何か新しいことを生み出すという可能性を考えており、当然観光等における情報発信はじめ、色々な事業への展開についても、力が加わっていってお届けできるものがあるのではないかと考えております。

地域づくりについても、職員はどんどん減ってきますので、今まで職員が動いていた分のところを、市民の皆さんの力をお借りしなければならない、家庭の問題等についてもそうですが、皆さんのお力をお借りしなければ今後は持続する下呂市の運営が難しいのではないかと考えております。

●市長

高齢者問題も、私事ですが老老介護等の問題を感じていますし、現実を打破していかなければならないと感じております。しかしながら1市町村でなかなか解決することはできない問題があるのではないかと。旧下呂温泉病院跡地は人口重心地であり、観光の中心地であるわけですが、今後市民みなさんからのアイデア、ワークショップ等で色々なご提案もあることと思います。そうした案を出していければお客さんの楽しめる場所にもなるのではないかと考えております。

○市民

先ほどから市役所の位置は旧下呂温泉病院が中心地という話が出ております。では、金山を外したら中心地は違うのではないのでしょうか。金山は非常に遠いので金山だけ行政ができる機能をつくればどうかと提案したい。

また下呂駅には駐車場が4台分しかない。あの考え方は地域の人のがんがわかっていない。そういう人たちが主導していく街づくりには、僕は反対です。下呂温泉も2つの外資からの恩恵で立派な温泉街ができ、100年が経ちました。今後は新しい温泉街をつくるべきで、新しい駅を造ってもらい立派な下呂温泉にしていくべき。特に下呂駅というのは他の温泉地とは違い、温泉街のど真ん中に駅があり、これを有効に利用するべきです。商業

地に役人を住ませるよりほかの地域で行政を執っていただき、観光地を発展させていきたい。

検討委員会の委員長が途中で辞退しました。これは、最初から病院跡地、庁舎、星雲会館の3つの候補から選ぶ方法で、下呂温泉病院跡地しかないような作戦で、最後になってから総合庁舎の話が出て委員長はこれに怒った、俺をだましたのかという発言でした。

●総務部長

検討委員会の話が出ましたので、私のほうから経緯だけお話させていただきます。17名の委員で構成され、10回の会議を開きました。私どもは「旧下呂温泉病院跡地ありき」で話を進めてきたということは一切なくて、条件としては経費を抑えなければならないということで市有地を優先して進めるところはスタートの時点ではハッキリと明記しておりました。

6,000㎡という面積を想定していましたので、そこから場所を絞っていった経緯があります。ある時点で、これではなかなか話が進まないということで、事務局から3つの案を出させていただきました。総合庁舎につきましては委員の皆さんからご意見いただき、検討させていただきましたが、所有が県であること、土地を購入しなければ用地を確保できないということから、資料は一部出させていただきましたがこれ以上詳細な話をまとめるということは難しいということをお話させていただき、ご了解を得て進めてきたという経緯があります。

一昨年の秋、検討委員会がスタートした時期に県から土木部門での一体化の話があり、当時郡上市の事例もありましたけども、当初検討委員会が立ち上がったばかりであり、現在では下呂市としては難しいとして一度はお断りしたことがあります。また、昨年8月になって農林部の方から正式な話ではありませんが土木と同じような話があり、検討委員会の方で話をさせていただいて、資料を踏まえた上で委員会の中で協議していただきました。

色んな条件があった中で下呂温泉病院跡地がふさわしいのではないかという判断を委員会の方でしていただいたという経緯であって、決して私どもが導いたとか、当初から思っていたということではありませんので、誤解のないようにしていただきたいと思っております。

●市長

平成22年に岐阜県知事と私と覚書を交わし、更地で下呂市が買うということであって、当時庁舎を建てるという話があったわけではありません。

○市民

どう考えても計画的に結論ありきで進めていたのではないかと思います。検討委員会の判断を参考にすると言われたのは、当然のことですが、ただし、委員会がスムーズに紆余曲折があっても統一見解を出せば常識的な判断だと思いますが、委員長が辞めるという異常事態があったので、その時点で話を白紙に戻して市民の意見を聞いてやっていけばよかったのではないかと思います。

急激な少子高齢化の中で、今現在の人口規模で判断したのか？身の丈にあった施設でいいのではないのでしょうか。災害対策本部になるようなところと言われていますが、跡地はイエローゾーンであり、他の地域でよいのではないのでしょうか。中心地という話がありま

したがこれは安全面とは全く違った理由ではないでしょうか。新庁舎が極端に南北に偏っていないのであれば、下呂でも萩原でもよいわけで、結論ありきで人口重心地という理由になっているのではないのでしょうか。

●総務部長

旧下呂温泉病院跡地は確かにイエローゾーンの区域であります。芦谷、下呂大橋の安全性の問題についてですが、現在、下呂大橋については耐震化工事を行っており、芦谷については病院建物取り壊しに合わせて分流の工事が行われる予定で、病院跡地の安全性については向上するのではないかと考えております。中心地については、振興事務所の仕事を本課が集約していく予定であり、職員が本課から各地域へ出向くわけで、中心地が望ましいのではないかと考えております。

○市民

星雲会館での話では、ほとんどの方が今は造るべきではない、必要ないという話が殆どでした。なぜ民意の声を無視されて造るのか不思議ではありません。39,800人から35,200人という4,600人の減少は、今の小坂と馬瀬の人口よりも多い。平成36年には3万人を切るというときに、なぜ庁舎を造らなくてはならないのでしょうか。総合庁舎、警察署、県庁は耐震化して、新しい庁舎を造っていません。市民の声を聞いていないのではないのでしょうか。市民の声を反映して考えるべきで、一本化ありきで話をしているとしか考えられません。特例債があるならサニーランドの更新等に使っていただきたい。もっと市民の意見を尊重してほしいです。

●市長

庁舎を造るのは、市民の皆さんのために造るのであって、職員のために造るではありません。将来世代に負担を残さない、今やるべき、合併特例債があるときに造るべきであって、耐震化するとしても建物そのものの寿命が延びるわけではない。子供や孫たちの時代に建て直そうとしたって有利な財源がないわけです。

○市民

下呂の観光の中心地に造るとするのは、1年の3分の1がカーテンを閉めている状況なのはイメージダウンになり反対です。農林・土木以外の部署も総合庁舎に入れてもらえれば駐車場も広く便利がよいのではないかと思います。本庁舎を総合庁舎にご厄介になれば、振興事務所の建て直し等もできるのではないのでしょうか。

●総務部長

観光施設としての利用価値については、多々ご意見をいただいております。今後庁舎がどうあるべきかということにかかっているのではないかと思います。駅の傍であり、玄関口、職員の対応等総じて対応していかなければならないと思っております。

庁舎は職員だけが使うというわけではなく、市民のふれあいスペース、コミュニティ、活動の場として使えるような事例も参考としていかなければならないと思っております。総合庁舎については、スペースがたくさんあると思われませんが、農林土木関係事務所を入れるスペースで一杯いっぱいになるのが現状です。

振興事務所につきましては、活用できるものは活用しながら、基本的には縮小というのは否めない、いずれにしましても建設には大きなお金がかかることは申し上げたとおりで

すが、本当に将来を考えた時に、どちらを選択すればお金を浮かすことができるのかトータルで考えていかなければならないと思います。私どもの思いとしては、今回の提案をさせていただいたことが、将来の負担を減らすことにつながり、職員も1つとなってもっともっと頑張っていける組織ができるのではないかと考えてお願いしたいと思っております。

○市民

庁舎の一本化は大切であり、反対するわけではありませんが、場所の選定について将来にわたって大変なことがおきるのではないかと心配しています。上呂に龍泉寺というお寺があるのですが、昨年10月に20メートル幅の表層雪崩が起きて、人工林が下に落ちました。幸いにして山裾があって止まりました。下呂温泉病院跡地周辺は麓や裾がない場所で、麓には旅館が建ち並んでいます。最近の気象では210日経っても台風がやって来る、梅雨が過ぎても雨が降る状況で、災害対策本部を作るとき、川西線は通行止め、下呂大橋一本しかない状況で大型機械等が入ってくるができるのでしょうか。災害対策本部が作れる場所がよいのではないのでしょうか。萩原町は歴史と文化がある。アメリカでいうワシントンDCは萩原、ニューヨークは下呂でよいのではないのでしょうか。

○市民

区長をやっておりますが、平成25年度から米寿の方はメッセージのみ、敬老会の費用も弁当代のみ、そんな苦しい状況下で市民サービスの向上ができるのか。10年見据えた行政をやるべきではないかと思えます。

○市民

先ほどからお聞きしていますと民意が反映されていないと思われませんが、住民投票する計画や案があるのでしょうか。

●市長

現在下呂市には住民投票条例がございません、もし制定するのであれば時間がかかるのではないかと考えられます、従いまして現在住民投票条例がありませんので、私どもの今の考えでは、住民投票を行うことは考えておりません。

私の方としましては、市民説明会、ワークショップ、また検討委員会のご意見や議会での一般質問等の議論を踏まえてこうした方向性を出させていただいたのでご理解をいただきたくお願いいたします。

以 上

会 場 星雲会館天慶の間

日 時 平成 27 年 2 月 4 日（水） 午後 7 時～午後 9 時 30 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

下呂市は南北に長く集落も分散しているため、震災時は集落ごと孤立する可能性がある。振興事務所は災害対策の面からも強固なものが必要だと思う。

病院跡地は洪水ハザードマップではイエローゾーンであり、建物を高くする等しても道路が冠水すれば意味がない。位置選定についてその辺の検討はされたのか。

●総務部長

全市的な災害では、それぞれの振興事務所が拠点となって対応します。孤立対応で重要なのは連絡手段の確保だと思います。防災行政無線、衛星電話の有効活用で孤立集落対応を考えています。

飛騨川の浸水区域、芦谷からの流入も考えられる区域ですが、谷の改良工事を予定しています。また、現在、下呂大橋の耐震工事も進行中です。

○市民

保育園運営に携わっている。最近は若いお母さんも働かざるを得ない時代で、本来は家庭で育てられる小さいお子さんまでもが預けられている。反面、企業でも女性を戦力として確保したいが、子育てのため仕事を断念している女性も多くいると思われる。子育て支援の充実を願います。

「持続可能な下呂市のため」にと、減らす、削減する、見直す等ばかりでは、市職員も夢を持って市民と一緒にやっていくこともできなくなるのではないかと。市職員も希望を持てる行政であってほしいし、われわれもそういった職員とともにまちづくりを進めたい。職員は減らさずにやっていく方法を考えてほしい。市長として 5 年後、10 年後に希望を持てる力強い考えを示していただきたい。

●市長

合併当初の年間出生数は 280 人いたが、現在は 200 人を割っています。いろいろな少子化対策を実施してきたが、あまり効果が表れていないのは残念です。

下呂市に住んでいただくためには雇用が大事。事業規模を拡大している市内企業も聞いています。企業誘致も思うように進まない中、市内企業を大切にするとともに、市内企業に就職していただけるよう PR していきたい。

農業の面でも、I ターンで就農している方も増え、また地域おこし隊による地域づくりも始まっている。職員も支援員として特色ある地域づくりに励んでいる。

地方創生法案が施行された。いろいろな方の知恵をお借りして特色あるまちづくりを進めていきたい。

○市民

建物は重要ではないと思う。ハードでなくソフトを重視すべきです。私は会社を経営しているが、お客様に満足して頂くことが最大のテーマだと思っている。市職員も下呂市民の幸せのために働くんだという目的を持っていただきたい。仕事の質を高めることが重要であって建物は必要ない。既存の施設で充分です

子ども、孫の世代の幸せを願う人ならば、職責を全うしようとする人ならば、立派な建物は必要ないはずです。

●市長

私は、普段から職員に「職員である前に市民である。」ことが大切であり、「地域の行事には積極的に参加し市民の皆さんと交わることが必要だ。」、と言っている。一市民、一住民であるということ念頭において取り組むよう言っている。

建物については、既存施設を耐震化しても建物の寿命が延びるわけではありません。庁舎整備は子どもや孫のために、合併特例債が利用できる今、やるべきだと考えて提案しています。

○市民

一本化の必要性で述べられている理由①の耐震化については、子どもの命は大切なので学校の耐震化は必要だと思うが、市職員の命よりは、他に耐震化すべきところがあるのではないのか。理由②の現在の分庁により市民が不自由である、とあるが、そんなことはない。また理由⑤の市職員数について、市民 100 人当たりの職員数は下呂市 1.8 人に対して高山市は 0.9 人である。職員数を減らすのは当然である。

私は庁舎の新築は反対です。

●市長

福祉関係は市民部、福祉部、健康医療部と下呂、萩原に分かれていて、実際、お年寄りにとっては大変不便だと思います。

耐震化については、学校はすべて終了しました。しかし、いくら耐震化したとはいえ古くなれば改築の時期がくることは間違いない。庁舎整備は、15～20 年先に取り組むことが可能とは言えないので、今取り組むこととしています。

○市民

検討委員会で、庁舎は病院跡地という結論を出されたが、それはあくまで参考意見であるはずだが、あっさり方向性を決められたのはおかしい。庁舎問題については市の説明会、議会説明会、市長による説明会があったが、萩原では賛成という声は聞かなかった。新庁舎はいらないのではないか、もっと検討したほうが良いのではないか、という意見が多かったはずだが、そういう意見をどう思っているのか。

また、整備費用に病院跡地の取得費用が入っていないのはなぜか。

●市長

市民説明会も、金山、小坂が終了し萩原地域で実施しています。これまでも厳しいご意見をいただいています。賛成の声がないと言われますが、賛成の意見はこういう場では言いにくいものだと聞いています。100%反対だとは思っていません。

跡地取得については、平成 22 年に知事との覚書によるもので、庁舎を建設するために

取得したものではありません。財源については平成 20 年度から毎年 1 億円を積み立て、現在 6 億円の基金があります。現在下呂病院側と交渉中ですので、金額は申し上げられません。

○市民

病院跡地について。7月に配布された資料によると「新庁舎は市有地で検討」とあったが、どうなのか。また、既存の建物の取り壊しはどうなのか。

観光立市として観光に力を入れているが、病院跡地に庁舎となると、年末年始や連休など人が集まるときに、閑散となってしまうのではないかと。下呂の玄関口には相応しくないのではないかと。

●市長

既存の建物は下呂病院で取り壊します。

観光立市として、複合施設を建設したらどうか、など、いろいろなご意見が寄せられています。全国にも複合施設となっている市役所もあります。今後ワークショップなどでいろいろなご意見、アイデアを聞いていきたい。

○市民

私は聴覚障害者です。庁舎建設についてはハード面の充実より、ソフト面での充実を希望します。私たちともあいさつや会話ができる職員がいる窓口とか、電光掲示板の導入などを検討していただきたい。

●市長

ソフト面また福祉の面からも大切なことです。参考にさせていただきます。

○市民

現在の下呂市の一番重要な課題は、人口減をいかに食い止めるか、ということではないかと。新庁舎に多額の費用をかけている場合ではないと思う。庁舎整備の理由をいろいろ述べられたが、すべて覆されるような理由ばかり。建設費用は、人が減らない施策、人が集まる施策に向けるべきではないかと。

馬瀬の惣島小学校は完成後5年で廃校になったと聞く。多額の税金が捨てられた施設だと感じている。その二の舞にならないよう、庁舎建設について十分に検討していただきたい。

●市長

惣島小学校は統廃合によって廃校になりました。跡地は社会福祉法人高佳会によって施設整備され、地域の人口も増えていると聞いています。

地域創生のため、観光計画などで地域の宝を磨いてきた。交流人口、観光客の増は行政だけではできるところではなく地域の皆さんにも協力をいただいて進めている。

地域づくりは、地域おこし隊や I ターンによる就農といった施策に力を入れていきたい。地道に、気長に続けていくことが大切だと考えています。

○市民

病院跡地は観光にとって大切な場所です。市役所を整備しても後悔することになると思います。観光に力を入れるのであれば大型バスの駐車場として整備するのが良い。子どもの数も減り、学校の統廃合も進むはず。慌てて庁舎を新築しなくても、耐震化され

た学校施設も余ってくると思うので有効活用をしたらどうか。

庁舎整備により、借金も増えると思うが、下呂市の借金の返済計画はどうなっているのか。

農林業に携わっているが、昨年からトラクターやコンバインなどにも固定資産税が賦課されるようになった。医療費を上げ、農機具に税金をかけなければやっていけないような下呂市では情けない。庁舎の検討委員会より、こういったことに検討委員会が必要ではないのか。職員もちゃんと検討し取り組むべきだと思う。

●経営管理部長

起債の返済計画についてですが、年間約 30 億円を返済しています。そのうち約 20 億円について交付税措置されています。有利な起債で負担を少なくするよう努力しています。

●副市長

難しい時代になったことは皆さんのほうがよくご承知かと思います。

30 年前に、このような早い速度で高齢化、少子化が進むと予測された方はいないと思います。人口減少により生産力は落ち、高齢化により体力も落ちます。

行政は市民の安全、安心を守っていく義務があります。国のやるべき仕事、県のやるべき仕事、市町村のやるべき仕事がありますが、最近は権限移譲により市町村に仕事が降りてきています。

目に見えるスリム化を進めなければならない反面、業務は増え、市民ニーズも増えるなかでコストは下げなければならない二律背反が全国の自治体に求められています。創生会議でも警告ということで消滅するであろう都市があると提案をされています。

そんななかでハードよりもソフトを充実しろという意見もあります。市民力を活用する夢を求められていることも理解しています。コンクリートよりも人へ、という時代でもあり、ソフト重視の考えで向かっていますが、屋台骨は市町村行政が持つ根本としては、確固たるものを造って、そのうえでソフト面を強くしていくことが大切ではないかと、市長も述べられてると認識しています。

合併 10 年が過ぎましたが、新しい自治体として各地域の方々がまとまって動いているかということ、まだまだ難しいと、私は感じています。

厳しいことを実行していかなければならない時代です。新庁舎はいらないという意見も理解できますし、インターネットでやりとりすれば十分ではないか、という意見も理解できますが、血が流れている人間同士、顔と顔を合わせて決断をしていくことも大切だと思っています。今の制度の中で、現実的に考えられるのは、合併特例債の活用ができる今しかないという、市長の判断だと思います。

各種審議会、委員会、検討会等で市民の皆様にもご苦勞をかけていることについては市長も頭を悩ましていると思いますが、こういう時代だからこそ皆様の忌憚のない意見を聞きながら決断し、議会の理解を得ていくことになりまますのでご理解願います。

○市民

振興事務所がちゃんとしていれば新庁舎は必要ないと思うし、新庁舎より前に解決しなければならない問題が多々あるのではないのか。用地取得の基金も積み立てたままと

して、将来に活かすような方法を考えたほうが良い。

少子高齢化が進む将来の状況を見て、判断されたほうが良いと思う。

○市民

市長が先頭に立って進めていく、という気持ちが伝わってこない。下呂市が5年、10年、20年先にどうなっているのかと、皆も心配している。庁舎建設は分からないでもないが、それ前にやらなければならないことがたくさんあると思う。

国でも地方創生ということで地方を元気にする施策が進められると聞いています。また、高山市長は、職員に高山を元気にするアイデアを出すよう指示したと聞きました。下呂市はどうか。市長が先頭に立って取り組んでいただきたい。

●市長

地方創生については、まち・ひと・しごと創生総合戦略で平成26年度補正予算が1億3100万円となっています。特色ある戦略を作るべく部長会議でも、各部横断的に実施するよう指示を出しています。

○市民

病院跡地は洪水時は車での移動は無理です。土砂災害の危険もあり、また近くには250mほどの幅の阿寺断層もあるようだ。断層が動けば山の崩壊も考えられ、いくら耐震化された施設でも土砂等による倒壊もあり得る。場所的にどう考えているのか。

病院跡地の土地は飛騨川の堆積土。キラーパルスという強い揺れを引き起こすとも言われているなかで、地質学者もいない検討委員会で、この場所となったのは疑問です。

庁舎建設は賛成ですが、この場所は反対です。

●総務部長

洪水に関しては、芦谷の分流工事、飛騨川についても関連工事が徐々に進められると思います。阿寺断層については、何本かの断層があることは承知していますが、専門家でも詳しい位置などの判断は難しいと聞いています。

病院跡地は、市有地、6000㎡といった条件をクリアできる用地という事で総合的に選定されたものです。

○市民

現庁舎は震度6で倒壊の可能性がある、とされていますが、耐震化されていない旅館等は多数あり、庁舎以外の建物の倒壊により、新庁舎へのアクセスができなくなる恐れも考えられます。周辺の旅館について、倒壊の危険などのシミュレーションはされているのか。

また裏にはJRが走っていますが、過去の震災などをみても、軌道が浮き上がるなどで横断ができなくなることも考えられます。耐震化を考えるのであれば、道のシミュレーションもしておくべきでは。道路が寸断されれば初動体制に大きな影響があると思われるし、道を挟んで大きな建物が建設されているエリアほど影響があると思われる。

●総務部長

主要な道については、災害時には緊急輸送道路として指定され、隣接する建物についても耐震化を確保する、というのが基本であると認識しています。ただ、耐震化には多額の費用も掛かりますし国等の補助も明確に示されていないなか、どの程度の被害があ

り、どの程度輸送道路として確保できるのか、という情報は持っていません。

市役所は災害対策、その後の復興の拠点であり、庁舎の耐震化は国からの指示でもあります。

○市民

3月議会において総務費の予算として一本化の予算が上程されると思いますが、過半数の反対で否決された場合、この問題は引き続き検討されるのか。

●総務部長

予算と共に条例改正も上程します。条例が否決されれば予算は検討しなければなりません。

○市民

予算が可決された場合、反対を含めいろいろな意見があるなかで粛々と一本化に向けて進められるのか。

●市長

そのとおりです。

○市民

我々が建設的な意見を出しても、条例と予算が可決されれば一本化に向けて進められる考えか。

●市長

議員も市民から選ばれた方であり、議会の議決には粛々と従います。

○市民

耐震性や効率化、特例債の有利性などで庁舎建設を述べられているが、すべて行政側の都合ばかりではないか。市民側の都合では考えていないのか。

●市長

考えています。

○市民

考えている、というのであれば、分庁により効率が悪い、不都合であるという苦情はあるのか。

●総務部長

分庁により、二つの庁舎を移動する手間は現実ありますし、経費も掛かっています。また将来にわたって経費も掛かることになります。

○市民

行政側の都合ではなく、住民側の都合をまとめたものは、なぜないのか。

●総務部長

一本化により庁舎が遠くなる方もいますが、一つの窓口で用件が済むワンストップサービスの対応も可能となります。今の段階では見えてないので分かりづらいですが、利用しやすい庁舎となるはずです。

○市民

耐震性について。耐震基準が厳しくなったのは阪神淡路大震災以降であり、下呂市全体でも耐震性がない建物は7～8割くらいあるのではないかと。耐震化をやりたくてもで

きない住民のことを思えば、建設負担となる9億円すべてを住民側の耐震化に向けるなどの試算をしても良いのではないかと。

●総務部長

現在、市では耐震診断を無料で実施しています。耐震補強については一部を補助しています。こちらにどれだけの予算を使うかと、という選択になりますが、様々な業務があり、どれに重点を置くか、という考えになるかと思えます。

○市民

職員を減らしたり、給与を下げたりしたとのことですが、私も会社を経営していましたが、社員が少なくなる、給料が安くなる、ということはトップリーダーとして恥ずかしいことだと私は思います。

職員を減らす、給料を減らすことは未来に希望がない話です。職員を増やし、給料も上げて、やっていくのが良い経営者である、というのが私の考え方です。

●市長

残念ながらアベノミクスの影響は下呂市まで届いていませんし、県下でも下呂市内の民間給料額は下位のほうだと思います。給与削減により職員のモチベーションは下がったかもしれませんが、市民の方の厳しい状況を鑑みて職員も協力してくれた。削減した分は基金として有効に活用することを職員も理解しています。

○市民

将来を見据えると、今、庁舎を建設するには時期が良くない。

現在安定的に年間10人以上の雇用を生める会社は10社もない。下呂に来ていただくには下呂温泉を中心とした観光施策が必要であるので、中心地である病院跡地は適地ではない。

現下呂庁舎はリフォームすれば15～20年は持つと思われる。萩原庁舎は星雲会館に移動で充分。無理して新庁舎を建てる必要はない。

下呂市全体で夢を持って、住みよいまち、若い人が戻ってくるまちづくりを進めてほしい。3月には結論を出さなければならないが、今からでも修正して、雇用を生める下呂温泉へお客を誘致する施策を進めてほしいと願っています。

●市長

来月には北陸新幹線が開通し、12年後にはリニアが開通します。その中心に位置するのが下呂市であり、それらを利用して観光人口を増やすことがこれからの課題です。飛騨圏域、中津川市とも連携を図っています。

大動脈である国道41号線の安全、安心を築くことも大切でありますし、観光、スポーツの面からも濁河グラウンドへの招致にも力を入れています。5地域の特色ある観光資源の育成にも力を入れていきたい。

雇用、子育てのソフト面にも力を入れてきましたが、人口は増えていません。立地条件を良くすることが、雇用を生む条件であり、企業誘致にもつながることなので様々な方法を考えていきたい。

○市民

新庁舎建設は反対です。特例債は現庁舎の耐震化にも使えると思いますが、現庁舎を

耐震化した場合の費用や、何年持つのかなどの説明が資料には一切ない。

また、用地取得基金の6億円についても、将来必要となるかもしれない耐震化に向けて残しておくべきではないか。

●市長

6億円は旧下呂温泉病院跡地の用地取得のためのものです。庁舎建設のための積み立てではなく、下呂地域に下呂温泉病院を残し、また地域医療を守るためのお金です。

●総務部長

現在、本庁舎となっている下呂庁舎、萩原庁舎、星雲会館の旧館部分の耐震化については、必要最低限の整備と、屋根の修理、冷暖房の見直しを含めて7億7百万円ほどを見込んでいます。配管、内・外装のリニューアルも実施するともう少し掛かります。

また、耐震した場合どれくらい持つのか、については試算していませんが、建築の専門家に聞きますと、耐震化しても毎年の修繕経費は掛かりますし、最終的には建替える経費も考えられますので、合併特例債を活用して建替えるのが有利であると聞いています。

○市民

耐震化に特例債を充てた場合の交付税は。

●総務部長

元利と利息分の7割、という計算は変わりません。

○市民

湯屋地区の説明会にも参加しました。市長は住民投票はやらない、と明言されましたが、説明会があっても出席される方は50歳以上の方が中心であり、20～30年後の生産年齢人口の中心となる若い方の出席が少ない。そんななかで話が進められているのは心配です。

湯屋の説明会では「若い方に来ていただけないのは仕方がない」と副市長が言われたが、やり方を考えれば若い方の意見を聞く方法もあったはず。タイムリミットは近づいてきていますが、若い世代の意見を聞いていただきたい。

説明会で出される意見は、皆さんが将来を心配しての意見です。説明会をやりましたよ、という事実だけ終わらないよう、実りあるものとしていただきたい。

○市民

まだ決まったわけではないのに、決まっているかのようなこの説明会はおかしい。説明会とは決まってからやるものだ。

市長を選んだのは私たちです。市長の言うことがすべて正しいわけではない。職員も市民の意見を聞いてしっかりやってほしい。

高山の人に聞いても、岐阜の人が見ても、萩原しか庁舎の場所はないはずだ。お金も掛からず、耐震化も済んでいる下呂総合庁舎が一番ではないか。私の意見です。返答は要りません。

○市民

返答があいまいになっている事項があります。病院跡地は飛騨川の洪水時に浸水の可能性があるのに、あえて選んだ理由を、明確に返答ください。

●総務部長

庁舎建設場所の選定に当たり 100%完全な土地を探すのは難しいことです。いろいろな場所を調べたうえで選定したものです。住民の利便性や業務の関連などを検討委員会で協議され、市長が判断されたものです。

○市民

防災拠点として機能しないかもしれないと分かっているのに選定したのですか。建てなければいけないから選定したのでは。

●総務部長

リスクはありますが、総合的な判断です。

○市民

浸水したら防災の拠点にはならないはずですよ。

●総務部長

リスクは考えられますが、それに対する対策を考えながら進めていきます。

○市民

考えてから候補地を選ぶべきではないですか。

●総務部長

防災面だけでいえばそうかもしれませんが、市民の利便性を含めた総合的な判断です。

以 上

会 場 きこりセンター

日 時 平成 27 年 1 月 23 日（金） 午後 7 時～午後 9 時 15 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

小坂振興事務所の候補地としては現在地が一番だと思う。JAとの調整は必要だと思うが。

下呂総合庁舎へ農林、土木が移動した場合の経費はどうか。

また、環境部はどこに入るのか。

●総務部長

山村開発センターは土地、建物ともJAと共有している。JAとの協議とともに地域住民との協議が必要である。ただし、振興事務所の候補地等の具体案については、本日提示することはできません。

下呂総合庁舎への移動については、現在県と協議を進めています。郡上市では使用料は発生していないが、ランニングコストは面積按分で市が負担しているようです。スペース的には農林、土木部門が入るだけのスペースはあります。

環境部については新庁舎への配置を予定しています。

○市民

公の施設について、廃止などの話が聞こえてくるが、庁舎建設の話より、そちらの話を先にすべきではないか。

●市長

地域にとっては思い入れのある施設もあり、これからも地域と話し合いをしながら進めていきたい。

○市民

特例債がないと庁舎は建てられないのか。

●市長

基金等の積み立てもなく、合併特例債は必要です。

○市民

新庁舎が必要なのは合併時から分かっていた。その当時から積立等をすれば良かったはずだ。

庁舎の位置の議論より「どういった下呂市にするのか」というまちづくりの議論が先ではないか。まちづくりの拠点として考え、位置などを決めることが必要ではないか。

まちづくりの面からも、防災の面からも、病院跡地は大変疑問であり、発展性のある広い場所での建設を望む。

●市長

下呂市は観光立市であり、観光面での中心は下呂地区ですが、各地域特色ある地域づくりを進めることにより、一次産業から三次産業を活かしたまちづくりを考えています。その地域のまちづくりの中心は振興事務所だと思います。

●総務部長

下呂大橋の耐震化、芦谷の改良、アンダーパスへのポンプ設置などで防災面の強化を図っています。

○市民

庁舎整備検討委員会では、病院跡地ありきで進んでいたのではないかと。他の場所の検討はされたのか。

●総務部長

建設経費を抑えるために市所有地を中心に検討を始めました。他には現下呂庁舎周辺、星雲会館周辺、下呂総合庁舎です。

○市民

病院跡地の取得額はいくらか。

また説明資料にある整備費用について「大きく変動する可能性」とあるが。

病院跡地は、庁舎ではなく観光施設が良いと思う。

●市長

跡地を購入すると決めた平成20年度から基金を積み立て、現在6億円あります。まだ契約を締結していないので正確な金額は言えないが、3月議会に上程し審議していただく予定です。

●総務部長

整備費用については他市の建設費を参考に算出しています。現在、建設に係る人件費、資材費などが高騰していると聞いているので、“変動”としました。

○市民

市民と議会との懇談会などでは、庁舎建設については8割から9割の方が反対だという話を聞く。住民投票の考えはないのか。

●市長

8割～9割が反対だという話は聞いたことがありません。住民投票を実施する考えもありません。

○市民

議会で議決もされていないのに、決まったかのような説明会は納得できない。

●市長

私の考えの方向性とその内容を説明する会です。皆様との様々な議論を踏まえて、3月議会に上程するための説明会だにご理解願います。

○市民

耐震診断はされたのか。また、現在本庁舎として使用している施設を耐震化する場合のコストの試算はできているのか。

●総務部長

耐震診断の結果、耐震指標であるIs値0.6以上あるのは金山庁舎のみです。耐震化

のコストは、下呂庁舎 3.5 億、萩原庁舎 1.1 億、星雲会館（旧福社会館部分）1.45 億と試算しています。

○市民

市の財政状況が厳しい今、多額の費用を要する庁舎建設はおかしい。民間では絶対ありえない。市には危機感がないのではないか。下呂市の借金はいくらあるのでしょうか。

厳しい、厳しいと言われている中、下呂館も購入した。その購入費用は？、またその目的は？

●市長

下呂館の買収と解体費用は3億円ほどです。観光立市の中心地であり、すべての産業の中核となる施設を目的に購入したものです。

危機感を持って行財政改革を断行しています。また、職員給与の引き下げ等により職員にも負担が強いています。職員も危機感をもっていると思います。

既存の建物を耐震化しても、建物の寿命が延びるわけではありません。いずれ多額の投資が必要になります。合併特例債がない将来よりは、今やるべきだと考えています。

●経営管理部長

借金は一般会計、特別会計合わせて483億円となっています。

○市民

病院の移動により幸田地区が寂れてきたので新庁舎の位置とした、という話も聞いたが、それはおかしい。

また、振興事務局長が部長級から課長級になる、というのは納得いかない。

●経営管理部長

持続可能な下呂市を目指すためには、組織の見直しは必須であり、そのための変更です。ご理解いただきたい。

○市民

庁舎の建設には、市民の合意が必要なのに、庁舎問題が市民の心をバラバラにしていくようで心配です。

●市長

合併後10年が経過しましたが、一体感はまだまだではないかと感じています。バラバラになるというより、いろいろな議論を重ねることのほうが大切だと思います。

これからも特色ある地域づくり、誇りを持った地域づくりを進めていくことが大切だと考えています。

○市民

一極集中が災害に強いとは限らない。振興事務所を縮小するにしても、地域の特色が活かされるよう、よく検討していただきたい。

●経営管理部長

サービスを低下させることなく、業務をスリム化して維持することを考えています。また、災害時の体制も検討を進めています。

○市民

私は高山市の市民向けメールを受信できるようにしているが、昨年8月の豪雨災害時に、高山市からは20数件の災害関連メールが配信された。下呂市はなかったように思えるが・・・。

農林、土木部門は県と同じ事務所であれば、災害後の復旧事務はスムーズかもしれないが、災害発生中は、市庁舎から離れていてはダメでは。

●**経営管理部長**

農林、土木部長は市庁舎で指示、課長等が県庁舎に詰め情報共有する等の体制を執ることも考えられます。

○**市民**

合併する頃、県の振興局長が「県の事務所は飛騨地域に1つで良い」というような発言をされたと記憶しているが、県も組織等の見直しで下呂総合庁舎をなくして飛騨総合庁舎1本になるという情報はないのか。

●**市長**

下呂総合庁舎は耐震化工事されたばかりですので、それはないと思います。

以 上

会 場 湯屋地区公民館

日 時 平成 27 年 1 月 26 日 (月) 午後 7 時～午後 8 時 30 分

説 明

説明者の紹介、副市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

過去の説明会では、分庁のデメリットを挙げて一本化するとうたっていたが、今夜の説明によると、これは分庁方式ですね。

●総務部長

分庁です。

○市民

庁舎を新築し、振興事務所を残すとなると、新庁舎の分だけランニングコストが高くなるのではないのか。

●総務部長

不必要な施設は取り壊す等で対応したい。

○市民

説明会の開催チラシに「議会や市民の意見、提言を踏まえて」とあるが、議会による決定は3月ではないのか。議会で決まったかのような表現はどうか。

●総務部長

訂正します。会議冒頭で訂正すべきでした。

○市民

下呂病院が移設すると決まった時点で、跡地に庁舎を建設すると決まっていたのではないのか。

●副市長

当時の市長には、その考えはなかったと思います。

○市民

総合アドバイザーは、経済、政治、文化、歴史等の中心を理解されたうえで、病院跡地を提言されたのか。

●総務部長

アドバイザーは下呂交流会館建設時にも携わっている方で、下呂には詳しい方です。

○市民

益田の中心はどこだと思いますか。

●副市長

個人の見解にもよりますが、人口重心だと萩原町西上田ですし、地理的には下呂、萩原あたりだと思います。

庁舎の位置については、検討委員会の皆さんも大変難しい問題として審議していただ

いた。その検討結果を重く認識され、市長が判断されたものです。

○市民

益田の中心は総合的な判断をすれば萩原です。私は県下呂総合庁舎付近が新庁舎建設地として理想だと思います。

○市民

市民説明会、ワークショップにも参加したが、6割以上の方が新庁舎は必要ない、と言われていたように感じる。

説明会などには50歳以上の参加者が多く、若い方の意見が聞こえてこない。

アンケートを実施されたようだがどのような結果だったのか。

また、住民投票を実施する考えはないのか。

●副市長

参加を呼び掛けても、若い方の参加が少ないのは残念です。

住民投票は可能性としてはあり得るが、市長は検討委員会の苦渋の決断に重きを置いています。

先日きこりセンターで開催された説明会で市長は「住民投票は実施しない」と明言されました。

○市民

病院跡地の取得費はいくらか。

●総務部長

現在病院側と協議中ですので金額は公表できません。

アンケートは2000名を対象に実施し、約半数から回答をいただいた。そのうち40歳代までの方の割合は25～30%程度です。

○市民

特例債の返済は試算されているのか。

●経営管理部長

特例債は14年かけて返済します。よって市負担7億/14年で年約5000万円の負担と考えています。

○市民

この説明会の意見は、どこまで反映されるのか。「説明会をやりましたよ」という事実だけで終わるのか。

●副市長

新庁舎の整備方針は市長の政治判断で決断された事であり、我々も粛々と事務を進めていきます。庁舎の機能について、ご提案をお願いしていくことも考えられます。

○市民

これから人口が減り、また温泉客も減っている。観光の一等地に庁舎を建てては観光客の増が見込めないのではないか。今、大きな投資は避けるべきだと思う。

また、病院跡地は地震以外にも、土砂災害、川、谷の氾濫も考えられ不安な場所である。現庁舎を耐震補強したほうが良いと思うが費用は。

●副市長

合併特例債という有利な財源があるうちに整備を進めていく、というのが市長の考えです。

また、各庁舎を耐震化しても建物の延命化は無理ですし、何年後化には新築が必要となることも考えられます。

●総務部長

病院跡地は土砂災害警戒区域、浸水想定区域等になっていますが、下呂大橋の耐震工事、谷の改良工事等で防災対策を図っています。

耐震補強は、下呂庁舎が約4億円、萩原が約1.3億円、星雲会館が約1.8億円の計7億円余と試算しています。内装、エレベーターなどのリフレッシュ工事も実施すると約12.8億円と試算しています。

庁舎建設には有利な起債はなく、補助金もないため、今、整備することが必要と考えます。

○市民

分庁方式となったのは、萩原に遠慮したからではないのか。

徹底した合理化を進めるために振興事務所の規模をもっと小さくし、2～3名程度の支所としても良いのではないかと。昔の竹原出張所も数名で間に合っていたのではないかと。

建設費用の試算について、他市の平均単価を使用しているが、一番安価で試算すべきではないかと。

災害に関しては、昨夏の広島豪雨災害を見ると、避難の指示が遅れたことにより甚大な被害となったと思われる。各家々を一軒一軒回ってでも避難を呼びかけるなどの対応をすべきだったのではないかと。庁舎ばかり良くするのではなく、組織として対応する体制づくりが大切だと思ふ。

特例債の期限が近付く今になって尻に火が付いたような対応となっているのは、どうしてなのか。10年前から議論を深めて進めることはできなかったのか。

●副市長

合併時の計画では「まずは分庁方式をとり、近い将来に一本化しよう」という方針だった。10年の節目として、今、市長が判断し表明されたものです。

災害の体制については、いくら庁舎を一本化、組織を一本化しても、現地に行けなければ意味がない。また、自助、共助を基に対応するのが大事であると考えます。

●総務部長

建設費用はできる限り抑えるようにしたい。どんな庁舎にするのかは市民の皆様の意見を聞きながら進めたい。

災害については地域での対応が基本で、まずは自助、共助に頼る事になります。それを進めるためにも地域づくりが大切だと考えます。今後も防災資機材の補助、防災士の育成に力を入れていきたい。

○市民

10年前、合併協議会の委員だった。当時、新市名を決める際に住民アンケートを実施したが、今回も実施できないか。全市民から意見を聞く方法をとってほしい。

●副市長

市長に伝えます。

以 上

会 場 上原公民館

日 時 平成 27 年 2 月 5 日（木） 午後 7 時～午後 8 時 15 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

議会でもし、新庁舎に対する提案の見直しもありえると思うのでしょうか。

●市長

議会の 3 分の 2 以上の賛成がないと否決という事になります。もし、否決された場合は、白紙になります。

○市民

また、病院跡地に建設となった場合は、現在の下呂庁舎の土地の売却などは、考えておられますか。

●市長

公の施設の見直しも行っておりますが、今後、売却も視野に入れて検討を行っていきたいと思っております。

○市民

地域の活性化が行えるような、いい情報等がありましたら教えていただけますでしょうか。

●副市長

一方的なものではうまくいきません。お互いが知恵を出し合って、子供たちが戻ってこられる地域をつくりあげたい。行政も限界があります。地域の皆さんと地域を支えるためのいろんな知恵をしぼって、地域にあった方法で支援策については議論しながら支援を行っていききたいと思う。これをやれば絶対成功ということは、日本全国どこにもありません。弱い所を地域と行政が支え合って作り上げていききたいと思っております。

○市民

地域力向上支援委員ということで、色々と力になっていただいております。地域自身でも、地域を活性化しながら今後も進めていきたいと思っております。

また、合併特例債を使用しなければ庁舎の整備は難しいと思う。場所が、旧下呂温泉病院跡地になれば、上原としてはありがたいと思っております。今後進めていかないと、持続可能な下呂市、持続可能な上原を実現するには、庁舎整備が今後何年間か後期にずれたととしても、その時にはできないと思う。今後、個人的には、進めていただきたいと思う。

●経営管理部長

地域力向上支援員の増員をしながら、地域の皆様と一緒に地域力の向上の支援を行っ

ていきたいと思っております。

○市民

人口の重心を考えられたという事は、大変良かったと思います。

農林土木が県の施設に入るとありますが、災害が起きた際に、離れることになるので、残念ですが仕方がない事だと思っています。

●副市長

本当ならば 1 本化したいという事でありましたが、ソフト系とハード系が二つに分かれることとなりますが、一方では、市と県が連携をとり早い対応ができるのではないかと考えております。

以 上

会 場 竹原公民館

日 時 平成 27 年 2 月 6 日（金） 午後 7 時～午後 8 時 30 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

一本化は賛成です。早くやっていただきたい。

農林・土木部門の県との連携について具体的に教えてほしい。

また、市職員が減っていると聞く。職員採用は原則高卒以上とのことだが、中卒でもできる仕事はないのか。

●副市長

県との連携について。分かりやすい例えとして道が挙げられる。国道は国が、県道は県が、市道は市が管理し、改良等事業を実施している。しかし災害時には早急に復旧させなければならない。所掌はあるが、同じ建物にあることで情報を共有しながら早急な復旧体制が構築できると考えています。

農林についても、農地、山林の災害時における対応、早急な復旧事業への対応ができると考えています。

平常時においても、県の補助金関連事業などもスムーズな対応を期待しています。情報共有により認識を高めることもできますし、顔を見ながら仕事ができるのは大きいと思います。

技術系の農林・土木部門は県と連携する事も多いが、住民、福祉、健康などの部門については、県と連携することはあまりありません。昔は益田総合庁舎内にいろいろな指導機関もありましたが、権限移譲等により関係は薄くなっています。

●総務部長

職員採用は現在、高卒程度、大卒程度としています。以前には臨時職員の採用もありましたが、現在は控えています。

○市民

昔と違い通信網も発達している今、農林・土木部門をわざわざ県の建物に入れなくても、新庁舎に配置すれば良いのではないか。どうしても県と一緒にいなければならないのか。

●副市長

一本化とは一つの庁舎に市の組織全てが入ることが当然だと思いますが、検討委員会の報告の付言にあったように、県との連携を考えて判断されたものです。苦渋の決断として一本化の見直しをされ 12 月に表明されたものです。

通信ツールが発達し、いろいろな業務がパソコンでできる時代ですが、業務は人間がやるものです。基本的な報告はパソコンでもできますが、最後は、判断は顔を見て、言

葉でのやりとりが大切だと思います。

災害時においては、農林、土木の部長は新庁舎で、課長は県の庁舎で連携を取りながら対応していくつもりです。

○市民

県との連携ということであれば、農林、土木以外にも、観光などの部も連携は考えていないのか。

●副市長

現在、県の庁舎には、農林と土木部門があるため連携の強化を考えています。

○市民

人口重心地の西上田地内での建設を検討されたことはないのか。

●総務部長

今後の振興事務所は窓口業務と地域づくりに力を入れていくため、現場へ出向くことは少なくなります。現場へ向かうのは本課の職員となります。本課職員が、機動的に効率的に動けるのは人口重心地です。

●市長

建設コストを抑えるために用地取得が確実な旧下呂温泉病院跡地としました。取得費用は、平成20年から毎年1億円を基金として積み立てています。新たな土地を求めなくても良いためです。

○市民

その基金は新たな土地購入には使えないのか。

●市長

そうです。旧下呂温泉病院跡地の購入基金です。

○市民

4年ほど前に、旧下呂温泉病院跡地付近の谷が氾濫しアンダーパスが冠水した。対策は。

●市長

旧下呂温泉病院跡地近辺での分流工事の計画があります。検討委員会で検討される以前から計画されています。

○市民

庁舎は災害時の拠点施設です。過去の豪雨時に病院付近まで浸水したことがあったので、二度と浸水することないように考慮していただきたい。

芦谷を直線的に抜く方法も検討していただきたい。飛騨川の方が水位が高く、家屋の移転も考えられるが、技術的にも可能となるのではないのか。

●市長

数年前からいろいろな事を検討していますが、様々な事情によりまとまらなかった経緯があります。是非取り組まなければいけない事業と認識しています。

○市民

農林・土木部門を県の庁舎へ移動し連携強化することは納得しましたが、県の農林、土木部門が高山に行ってしまうことはないのか。(農林、土木部門の移動により)新庁舎

の延床面積を減らしておいて、県の農林・土木部署が移動してしまったらどうするのか。
県との話し合いはされているのか。

●副市長

県のことなので、市が何か言えることでないことはご理解願いたい。現在聞いている限りでは、閉鎖して高山に移動する、という話は聞いていませんし、仮に移動するという話があった場合は、市を挙げて大反対します。

○市民

現時点ではそうかもしれないが、何年後かに知事が替わって強引に実施された場合、市長の責任問題だと思いますが。

●市長

そういったことがないよう、県との連携を強めていきます。

○市民

幸田地区でも谷水の処理に苦慮し、なかなか一つにまとまらなると聞いている。解決の見込みは。

●市長

旧下呂温泉病院跡地取得後、分流工事を施工し冠水の解消を図る予定です。

○市民

平成 31 年度を目指して、庁舎の一本化、組織の見直しなどが述べられているが、特に公共施設の見直しを進めていただきたい。

民間にどんどん払い下げて、カットするものはカットするという最大限の努力をお願いします。

●市長

仕分作業を進めていますが、合併前にそれぞれの地域で様々な目的で建設された物があり、見直しにはハードルの高い施設もあることもご理解願いたい。

○市民

勇気を持って最大限の努力をお願いします。後世に遺恨を残さないために。

●市長

364 の施設を今後も市が管理していくことは不可能です。下呂市も消滅可能都市といわれ警告されています。皆さんの知恵を結集して協力していただきたい。

○市民

新庁舎における通学、通勤時間帯における交通渋滞等のシミュレーションは。また旅館も多数あるので交通事故等も懸念している。

また、少ヶ野地区では積雪の多い道もあり、朝の時間帯に通勤、通学者が集中するときの事故等のリスクは、どの程度考えているのか。

●総務部長

具体的なシミュレーションはありません。下呂温泉病院があった時の来客者数と新庁舎への来客者数は大差ないと考えています。

通勤、通学者の時間帯、庁舎を利用される方の時間帯、観光客の動線などを把握して方策を立てる必要はあります。

●副市長

職員には自動車通勤を奨励していきたい。ノーカーデーや便乗、いろいろ模索をしながら具体的な方策を検討したい。

○市民

364の施設に竹原公民館は入っているのか。

●総務部長

入っています。

○市民

見直しの対象外としていただきたい。ここの利用は多く、昨年から出張所に職員1人が配置されたことはありがたい。竹原地域は面積も広く、人口も小坂と一緒に、私は振興事務所の一つととらえています。是非見直しの対象外としていただきたい。

●経営管理部長

見直しの対象ですが、取り壊すというものではありません。管理運営を地元の方にも協力していただく等、存続していける良い形を皆さんと一緒に考えていきます。

○市民

竹原地域に地域力向上支援員を2人くらい配置できないか。今でも、農林やその他部門で地域力を発揮していると自負しています。

●経営管理部長

現在は下呂地域振興課に1名配置されています。また、今後増員する予定で、各振興事務所に最大5名を配置したいと考えています。どこに、どう配置するのかは今後の課題でもあります。

地域力向上支援員とは、皆さんの活動支援や、皆さんとともに活動することを目的としています。

●市長

農地水環境整備事業で4団体が活躍されていることは十分認識しています。子どもからお年寄りまで参加された事業を進められており、地域力を発揮していることを認識しています。

以 上

会 場 中原公民館

日 時 平成 27 年 2 月 9 日（月） 午後 7 時～午後 8 時

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

庁舎の一本化は大事なことで賛成です。ただし、庁舎の位置については、旧下呂温泉病院跡地は下呂温泉の一等地であり、土日、祭日がゴーストタウンのような淋しい所とになってしまうのではないかと心配である。できれば県の総合庁舎を買い上げて職員皆が移動したらどうか。県職員は 40 名ほどがいるようだが、別のところに移ってもらったらどうか。

また、幸田では駐車場の確保も大変で、交通事情もよくないので心配である。夢のような話だが、東上田トンネル辺りから向かいに橋を架け、下呂市の中心地である釜ヶ野地区に庁舎を建設したらどうか。県道が通る多保木地区は大変危険個所であり、迂回する意味でも国道から県道への取り付けを考えてはどうか。

●市長

旧下呂温泉病院跡地は下呂市から見ても、観光面からも中心地であることは認識しています。現在日本各地の市役所には、複合施設となっているものも多くあり、市民の方からも商店街の併設やテナントを作ってほしいという話も聞いています。議決頂ければワークショップ等で色々なご意見を伺う機会もありますし、土日に灯が消えるという事もないと思います。

なお、現在、下呂の総合庁舎には 115 名が勤めています。

●副市長

下呂総合庁舎を買い上げるという議論はあるかもしれませんが、市としては、その認識は持っていません。あくまでも県の施設であり、その活用方法は県が考えられることです。

ただし、県職員数も減ってきていることは事実であり、建物のキャパシティの範囲内で活用させていただけないか、という検討をしました。

ただ、市の農林・土木部門が入るだけで総合庁舎は一杯であり、それ以上の組織が入る事は不可能です。

○市民

市の提案された案が一番だと思います。JR にも近く、車に乗れない方にも良いと思います。

新庁舎について、何階建てであるとか、駐車場の位置などを示していただければありがたい。

●総務部長

具体的には市民ワークショップなどを通じて形作っていくこととなります。昨年から開催してきました説明会では4階建てと想定していますが、その場所等については具体的なものは決まっていません。市民の方に利用していただきやすい場所を考えていきます。

○市民

新庁舎建設後の旧庁舎はどうなるのか。金山庁舎はかなり空いているがその取扱いはどうされるのか。

また、クリーンセンターにもお金がかかり、下呂館跡地の問題もある。新庁舎を建設する時期ではないのではないのか。

●市長

新庁舎を旧下呂温泉病院跡地に造ることになれば、公の施設の話でも述べたとおり、現庁舎の土地を処分するというのも選択肢の一つだと思います。

金山庁舎については2～3階に各種団体が入って利用されています。下呂館は現在解体を進めています。また、跡地については民間が、絵を描いているようです。民間の皆様にも力を出していただいで運営できれば良いと思っています。

○市民

平成31年度には財政状況が厳しいものになると言われています。今後の振興事務所の在り方を示していただきたい。また職員を減らすことはいいが、市民サービスの低下につながらないようにしていただきたい。

●副市長

振興事務所については、案の段階ですが、代替施設で間に合うと考えていますが、JAとの関わりがある小坂振興事務所はコストがかかると思われます。あとは既存の施設への移動を考えています。

職員数を減らすことについては、市には自治法で様々な権限が委譲されています。業務が増える一方で、職員を減らすという状況の中で、庁舎のスリム化、一本化を進め、分散しているものを集約していくことも、大きな狙いだと考えています。色々な相乗効果を期待しています。

○市民

万が一、議会が通らなかった場合の代替案は考えているのか。

議会による説明会にも参加したが、かなりの頻度で反対意見が多かったのを聞いています。場所のこと、耐震化したほうが安いのではないのか、などいろいろな情報を聞いた。

●市長

新庁舎に関連する条例、予算を3月議会に提出します。庁舎の位置については議員の3分の2以上の賛成がないと成り立ちません。反対が多ければ、この新庁舎整備はなくなることとなります。私の想いとしては、今後耐震化等の対策を立てていかなければならないだろう、と思っています。

だが、新庁舎整備にご理解いただければありがたい。

以上

会 場 下呂市民会館

日 時 平成 27 年 2 月 10 日 (火) 午後 7 時～午後 9 時

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

まず庁舎の跡地と表明されたことに対して、厚く御礼申し上げます。完全な一本化とならなかったことについては、少し心配が残るところですが、かねてから病院跡地整備をお願いしており、幸田区内のアンケートでも 9 割以上が病院跡地へ庁舎歓迎というご意見が出ておりますので、賛成の意見として述べさせていただきます。なお、使いました資料につきましては、昨年 7 月に配られました下呂市からのお知らせ「庁舎の一本化について」を参考にさせていただきました。若干今と違いがあるかもしれませんがご容赦いただきたいと思っております。

まず、今から 8 年程前に県のリハトピア用地への新築移転を前提に地域医療を守る中核病院として下呂温泉病院の方向が決まりました。その時点で病院跡地は下呂市が買うということの約束があったと思っております、その基金が積み立てられました。市単独で購入することになっていた病院跡地が、庁舎を建設することによって合併特例債を利用できることとなりました。先ほどの説明の中には、購入費に一切触れていなかったのですが、勝手に、例えば購入費を 5 億円とした場合、約 1/3 の 1 億 6 千万円で済むこととなります。同じく新庁舎の病院跡地購入費の 5 億円を入れて 29 億とした場合でも、市の負担は約 3 分の 1 の 9 億 7 千万円ほどで済むという計算となります。

一方、現在のままの分庁舎では、下呂庁舎、萩原庁舎、星雲会館旧館の耐震費用は、老朽化に伴う費用を伴いまして 12 億 8 千万円と試算されております。この場合も合併特例債の対象となるので、市の負担は 4 億 2 千万円となりますが、病院跡地の取得費は合併特例債の対象とはなりませんので、取得費用の 5 億円を足しますと 9 億 3 千万円ほどになります。

したがって、9 億 7 千万円で新築するか、9 億 3 千万円で分庁舎のままで継続するかということになります。また、本庁舎の維持費が年間 1 億 5 千万円となっております。新庁舎とした場合は、年間 1 千 5 百万円と説明されておりますのでどちらか良いかは明白なことだと思っております。

病院跡地の取得費は基金ですけれども、市の財政は一緒ですので有利な特例債を利用することができると思っております。「金だけではなく住民の利便性」という声がありますが、振興事務所のあり方については、先ほど説明があったとおりでございます。

また、病院跡地については他の施設とか様々な意見があります。しかし平成 24 年度に病院跡地利用の業者提案は、全てが福祉施設でしたが、すべて撤回されました。介護施設は国が在宅福祉の方法で、保険料の負担と給付のバランスやら下呂市の介護保険計画

にも位置づけされておられません。観光施設は、どんな施設を誰がやるのかということも明確にされておられませんし、もちろん市の施設として取り組んでおられません。

合併特例債の火が付いてから、都市計画区域の下呂地区以外は対象にならない、過疎、へき地、中山間地などの制度を利用するという思惑も見えないではないかとの思いは、考えすぎでしょうか？

庁舎一本化については、市の行政改革に、例えば議会に報告があったはずですが。市長の公約だけではなく、市の方針と思っております。

「借金はよくない」という声があります。しかし、合併はこのままでは世が先行いかなくなくなるとして国が促したもので、特例債は社会資本のための整備資金として認められたものです。有効に活用し地域を活性化し地域の発展へとつなげるためのものです。住民が、観光客が使う下呂らしい庁舎によって発展させなければなりません。

一方で合併効果を果たすために、私たちにも変わらなければならないことが求められていると思います。新クリーンセンターが地元の方の苦渋の決断により整備費用が大幅に削減され、特例債が庁舎整備に全部あてられるようになり、期限も5年間延長されました。これをチャンスととらえるべきではないかと思えます。防災面でも、飛騨川河川整備、大橋の補強、幸田排水路計画等に対策はとられています。新庁舎の整備は、さまざまな議論を重ねられ、市から逐一報告されておりました。しかし、反対の声はよく目立ち、賛成の声は表に出てこないのが世の常だと思えます。下呂市の発展を左右する重要な時期に将来に禍根を残すことがないように、真に下呂市の発展を考えていただきたいものです。合併特例債の償還が終わった10年後に「なぜ庁舎を新築しておいてくれなかった？」と言われたいようにしていきたいものと思います。そのための時間はありませんが、今までも繰り返し説明されておりましたけども、繰り返し市の説明をお願いします。また今日は市の説明会ですが、個人的な意見ですけれども議会でもたとえば無記名投票などの方法を検討し、民意の反映を正しく遂行しなければならないと思っております。以上賛成の立場から発言をさせていただきました。ありがとうございました。

●市長

庁舎整備につきましては、先ほど説明いたしました。「今財政的に厳しいときに、9億円も使って何をやるのか。」という意見も出ておりました。しかし、将来を見据えた時に、まさに今庁舎整備というのは下呂市の大きなシンボルとしてやるものですが、ただシンボルとしてではなく市民の利便性、市民の皆さんの発災後の安心安全を守るためにも必要であること、そして我々市役所で働くものが、できるだけフェイス to フェイスで話をする相談をする協議をすることが大事でございます。IT が進んでテレビ会議もできますけれども、やはり特に重要な問題については顔と顔を突き合わせて相談することが大事だと思っております。また、病院跡地の場所は、観光の中心地であることも事実であります。下呂市は観光立市ということで、観光計画を中心に5年間、下呂温泉を取り巻く全地域の宝もの、観光資源を磨いてきたわけでございます。さらに2期目の観光計画に取り組むわけですが、その時に、やはり中心地でありますから中心的な役割を果たす市役所が、全産業をトータルとして考えていくときに庁舎というのは必要な役割を果たすものと思っております。南北に55kmありますけれども、今後地方創生の戦略を練ってい

く下呂市の持続ある姿をつくっていく大事な時期であると思っております。

●**経営管理部長**

合併特例債を有利にという話がありあました。15年という期間の中で使える有利な起債でございます。市といたしましては合併以来、小学校の耐震、道路の工事等にインフラ整備を中心に合併特例債を使ってまいりました。今から使う予定としましては、クリーンセンターにつきましても、有利な形でつかっていくことで考えております。庁舎整備につきましても同じようなかたちで合併特例債を考えております。財政としましては、市長の方針の下、できる限り皆さんの負担を少なくするような財政の組立をしまして向かっていきたいと思っております。特に合併特例債は15年間という期限の中で有効につかうということでございますので、いまおっしゃった部分も含めて有効に使うということで進めておりますのでよろしくお願いいたします。

●**市長**

先ほど総務部長が説明しました中で、「議決がいただきましたら・・・」ということをお願いしましたが、議決を得た後に、この秋になろうかと思えますけれども、市民の皆さんとのワークショップ等開かせていただくということで色々なご提案をいただきたいと思っておりますし、観光地の真ん中ということになりますから、いろいろ意見をいただいておりますけれども、日本各地の庁舎を見ますと複合施設をもった市役所も多くあり商店街とかいろいろなご提案等可能性はあるわけでありまして、皆さんのご提案をいただきたいと思っております。

●**総務部長**

1点だけ訂正をさせていただきたいと思えます。先ほど庁舎の管理費の中で1億5千万円と2千5百万円という数字が出ておりましたけれども、新聞等でもそのような報道があったのですが、これは、1億5千万円というのは、現在の庁舎が入っているすべての建物の経費となりますので、庁舎部分だけを切り取りますと、そんなに金額はかからないということで、新しい庁舎の方は2千5百万円と想定はしておりますが、実際庁舎部分だけのランニングコスト、水道光熱費等の比較をしますと、推定ですが1千万円～1千5百万円程度の削減と思っております。ただし、公用車の台数は一本化することによって数十台という数が減らせるのではないかと考えております。この辺の経費と職員の削減、組織の削減等によって大きく出てくるのではないかとと思えます。

●**副市長**

本来は一本化でひとつの建物ということで始まったということだけのご理解いただきたいと思います。その中で市長が選択、決断されたのは、検討委員会の意見を最大限尊重したということでございます。結果的に2本になりましたが、若干説明させていただきます。

農林・土木というハード系を下呂総合庁舎に、それ以外の機能を旧下呂温泉病院跡地にという事でございます。

まず、農林を説明させていただきますと、県の農林行政と市の農林行政というのは、一体的、密接的な部分があるというのが第一点でございます。また、土木、道路につきましては、国道は国が管理、県道は、萩原にある県の土木事務所、市道は、市が管理し

ているということでございますが、基本的に道というのは、インフラでありますので、市民の皆様にとっては、安全性や利便性の確保が重要でありまして、一体性が非常に強いものでございます。

健康、福祉、民生、戸籍、上下水道等については、どちらかと言えば、下呂市が主体的に考えて、国あるいは県と協議して実施するという事業であり、日常的にあまり県と繋がりというのはなくてもいい行政機能となっているもので、災害があった場合は、農林・土木の部長がすぐに駆けつけられないという部分もありますが、それよりも平常業務の中の機能性というものを考えているのが事実でございます。

また、福祉や戸籍などは市の中で間接的に密接した業務ですので、組織が一体的になることで、行政のスリム化も図れることが可能となります。一本化によって、迅速化も図れ、サービスを低下させない範囲で職員を減らすことも可能となります。デメリットもありますが、メリットもあるということでご理解いただきたいと思っております。

また、災害の時ですが、ライフライン、インフラ等、県道、市道等や山の崩落等があった場合に、一日でも早く、迅速に治す必要があります。通常より業務の連携をすることで、県道、市道、また山の修復においても一体的に早くできるという部分にご理解を願いたいと思っております。

○市民

跡地は、西日が早く沈むので景観が悪いのです。観光施設にして、買い物、散策、足湯等憩いの場所にしてはいかがでしょうか。幸田、湯之島は観光地であり、観光協会、観光課を置いてはいかがでしょうか。今まで通りの場所に作ったほうが良いと思っております。

●市長

先ほども申しましたように、これは私の判断で12月に方向性を決めました。最終的には3月の下呂市議会で議決を得ないと成り立たないものです。私も、旧下呂温泉病院跡地は観光の中心であると思っています。私も市外も各地見てきておりますが、各地立地条件は様々ですが観光地の真ん中にも庁舎がある地域もあります。下呂市もワークショップ等で皆様のご意見をお聞きしながら、庁舎の建物だけでなく、観光地らしい施設をつくっていただけるのではと思います。

○市民

財政が厳しい中で、現状の庁舎のあり方では節約に限界があるという事は非常に理解できました。入ってくるお金が減って、当然出ていくお金もあるということであれば、当然入ってくるお金をどう増やすことを考えなければならないと思っておりますが、地域間競争がある中で、今後下呂市でどうやって入ってくるお金、歳入を増やすのか、具体的な策があれば教えてください。

●市長

私は市長に就任以来、下呂市全体で観光客 150 万人誘致と言って参りました。なかなかその数字には到達しておりませんが、そのためにも、観光計画を平成 22 年に作り、今後新たな観光計画を作りながら交流人口を増やしていきたいと思っております。小坂の滝、天領朝市、馬瀬の鮎、岩蔭遺跡等のように、周辺の観光地域を楽しんでいただき、お客様にお金を落としていただけるような策をつくっていかなければならないと思っています。

それぞれの地域の皆さんが地域づくりの一環としての活動や、地方創生の中で下呂市の戦略を練っていく。観光も含めた1次から3次産業を含めたまちづくり、地域づくりに力を入れていきたいと思っています。

○市民

市庁舎一本化については、最初の説明会にも出席させていただいて、私も真剣にこの問題を考えております。旧下呂温泉病院跡地も県の施設でもあり、おそらく県にも色々協力いただいた、総合的なお考えなのかと思います。そこでJR高山線との平面交差も支障をきたしているのではと思います。鉄道の高架等が行われれば、交通に支障もございません。庁舎については道路も必要となります。今後は、県への下呂小坂線の改良、JRの高架の改良等要望します。

●市長

何に致しましても、道路というのは大切なものだと思っています。色々県やJRとの協議も必要かと思いますが、今のご提案をありがたく承りたいと思います。

○市民

新庁舎の整備費用の中に、なぜ土地の取得費が入っていないのでしょうか。相対的な予算には土地の取得費を有すべきだと思いますがいかがでしょうか。

●市長

下呂温泉病院跡地を購入するということは、当時から市役所とする目的があったわけではございません。下呂温泉病院が新築移転をすることにつきましては、下呂市が地域医療を守っていくためには本当に大切なことだと思っており、下呂市が土地を買うと議会で議決をいただき、更地で購入ということで平成22年に覚書を交わしました。今後契約となって参りますが、買うと決定した時点では病院跡地に庁舎を造ることが前提となっていたものではありませんでしたので、ご理解いただきたいと思います。

基金は、平成20年から25年まで積み立てておりまして6億円ございます。契約金額を申し上げるわけにはいきませんのでご理解をいただきたいと思います。

○市民

5ページの合併以来職員を削減されたということですが、現在は何人くらいいるのでしょうか。

●総務部長

合併当初は、860名程度でしたが、現在、630名程度でございます。この中には、本庁の中に勤める職員以外に、病院、消防署、保育園といった職員も含まれます。

本庁に中に入っている職員は、その中の一般行政職での職員を算定しておりますのでお願いいたします。

職員の定員適正化計画というものを作っておりまして、職員の数をどのように管理していくのかという中で、平成31年からさらに5年先の職員の数として205名と算定しております。当初、250名と想定していましたが、県の総合庁舎への移動がありますので、その職員数45名ほどを引きまして、205人となっております。

○市民

新庁舎に魅力を感じますし、市長のおっしゃられた複合施設というのも確かにあるの

かなと思うのですが、やはり9億という借金をするという事は、将来的にそれを返済しなくてはならないということがあります。また、3月議会で可決されない場合には、新庁舎は新築できないという事になるのでしょうか。ということになりますと、後の計画として現在ある庁舎を耐震化しなきゃいけない、この後どうなるのかということも心配になります。

3分の2の議員の賛成がなければ、廃案になるとお聞きしておりますので、色々鑑みると、今の段階では、いくら市民が納得をしても、議会で反対されればおしまいじゃないかなと思っています。耐震についてもお金がかかるわけですが、老体に鞭を打ったところでこれが庁舎を新築した位の延命できるものなのか、そういった疑問もある中で新庁舎ありきとなっていますが、市民も納得し議会も納得できる、いい方法をご提示いただければと思います。これに関しては次世代の人たちや歴史が評価するものだと思いますが、新庁舎なのか、耐震なのか、一番いい方法をぜひ進めていただきたいと思っています。

●市長

現在のところは、新庁舎整備ということで、皆さんに説明しお願いをしているところであります。3月議会で3分の2の以上の賛成がなければ、廃案になるわけであります。

しかしながら、今は新庁舎整備一本ということで私は思っております。新庁舎整備ができなかった場合には、耐震化というものも選択肢の一つかと思っておりますが、今は、そのことを考えずに新庁舎整備の方向で考えております。

観光のお話もありますが、まだまだ達成できていない部分もありますが、一朝一夕でできるものではなく、心苦しい部分もあります。今後、5年間の戦略、地方創生の中で、皆さんのご意見を伺いながら、5か年の戦略を作っていくことが大切であると思っております。

○市民

合併以来人口が減ってきているわけですが、これから10年先、20年先にも同じくらいのペースで人口が減っていくわけでしょうか。

●経営管理部長

あくまで推測の数字ですので、必ずこの数字になるというものではございませんが、国の方で示しているものでは、平成37年下呂市の人口は推計では約30,000人になるという推計ですが、あくまで推計ですので、今までのようなかたちで進むとするということですので、十分ご理解をお願いします。

○市民

萩原のことをどうのこうの、下呂のことをどうのこうのと全然思っていないんですが、前回萩原の方で説明会を受け、多くの方が見えました。合併して11年目になります。総合庁舎へ入るから農林・土木部門を萩原へ持ってきてくださいとさらさら言うつもりもありませんし、耐震が可能であれば、現在の下呂の庁舎を耐震化していただいて、現在の病院跡地は観光の目玉としてリニアや濃飛横断を見据えた駅前開発ができるのではないかと思います。人口減少が進み、高齢化が進んでいく中、将来夢のあることを考えますと、時期的に今が庁舎の建設の時期ではないと思います。下呂全体元気が出てくる街づくりをしていただきたいと思っています。

南北非常に長い下呂市でありますので、何かあった時には振興事務所があった場合には、災害等救助する場合には動きが取りやすいと思います。

ここには新幹線はございませんが、リニアという夢も見たときに、今ここでやるべきことが他にあると思います。

●市長

少子高齢化 36 パーセントに近い中で、一番大事なのは若い方に残っていただく事が大切で、そのためには、雇用であると思っています。私の知りえた中でも工場を拡張するような会社もごぞいます。もっと下呂の企業の PR をしていく必要もあるのではないかと思います。妊婦健診や各種ワクチンの助成、第 3 子の保育料無料等子育て支援をして参りましたが効果がなかなか上がってこないのも実情であります。

また、私は、教育は大切であると思っています。国語算数等の学力が上がってくることも大事ではありますが、田舎の良いところ、自分たちで田植え、収穫する等郷土の誇り、文化、地域での事を地域で教えていただけたらと思っています。

企業誘致、濃飛横断、リニアの開通など、これから皆さんのお知恵をお借りしながら、下呂市の地方創生をやっていかなければならないと思っています。

以 上

会 場 菅田公民館

日 時 平成 27 年 1 月 16 日（金） 午後 7 時～午後 8 時 35 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

萩原、金山、馬瀬は下呂に遠いので、新しく作っても行かない。地震に強くなることはいいが、金山にプラスにならない。少子高齢化が進んでいるので、福祉に力を入れていただきたい。

●市長

下呂市だけではなく全国的に少子高齢化であるが、この対応にも力を入れていきたい。庁舎は仮に耐震化しても、寿命がそこまで伸びない。合併特例債がなくなってから庁舎を建てることはできない。将来の子どもたちのためにも今やるべきと考えている。

○市民

下呂までこの地域で 30km、金山の街中でも 22～23km ある。振興事務所機能が残る事は良いが、仮に災害時に下呂から金山まで来れないかもしれない。そういったシミュレーションを行ったうえで、振興事務所の機能を考えていただきたい。

離れているので、萩原、下呂の振興事務所とは違った機能を考えなければならない。

庁舎整備を進めることはよいが、平成 31 年度に向けて、振興事務所の機能を他の地域と一緒に機能ではなく、地域にあった機能を考えて進めていただきたい。

●市長

小坂の御嶽噴火の際は、小坂振興事務所を災害対策本部した。地域の災害では、振興事務所が対策本部となることを考えて、振興事務所を考えていく。

●総務部長

基本的には、どの振興事務所も同じ扱いでということの説明した。振興事務所であるような要件があると思うが、職員の配置を考えていかなければならない。

振興事務所に職員をしっかりと配置していくのが理想であるが、組織を統合して組織のスリム化を進め効率化していかなければならないという現実の中で振興事務所も同様である。市民に直結するサービスを行いながら、地域づくりを行っていくことで行政の手が回らない部分を担っていただくという事で進めていきたいと考えている。

○市民

しっかりと情報発信をして進めていただきたい。

●総務部長

下呂に庁舎を作っても金山にはあまり関係ないという意見をいただいた。去年のアンケート調査では庁舎の利用が年間 5 回以内という意見が多かった。また利用したことがないという意見もあった。本庁となると利用が少なくなるわけで、本庁がない地域にと

っては庁舎の必要がないと思われるのもわかるが、本課があつて金山振興事務所の運営もできるということや下呂市の行政をつかさどる所として私どもは必要と考えている。

○市民

地方交付税交付金が平成 31 年度に 18 億円減少するということであるが、そうなった場合、振興事務所がなくなってしまい本庁舎だけで運営していくのではないかと心配する。

●経営管理部長

人口が減り財政が減ってくる中で、下呂市が持続するために組織の見直しなどを行っている。その中で、今の振興事務所がそのまま運営することはできないと考えている。振興事務所の機能を変えていかなければならない。大きく変えるということではなく、窓口業務は残し、工事の発注・実施は振興事務所が行うのではなく本課で担うことにより、市民に直結する事務は守っていく。

また、市内にある公共施設の見直しを行いながら、18 億円減っていく中で振興事務所がなくならないようにやっていきたい。

○市民

今のところはそう考えているのであろうが、今後職員が減ってくるとなると本庁に集中してしまうのではないか。その時にはその時の考えになってしまうのではないか。

●市長

20 年後、30 年後がどうなってもいいという考え方はしていない。将来においても下呂市が、また金山地域が持続ある街であることを思いながら行財政改革に取り組んでいる。

人口の減少が想定される中で、この街を良くしていくために、市民のみなさんと市民がどうしていくのか、行政がどうしていくのかを一緒になって考えていきたい。

○市民

規模で 5,200 m²とは現在の庁舎でどの程度のものになるのか。

●総務部長

金山振興事務所が 4 階建てで 4,023 m²、下呂総合庁舎が 4,300 m²くらいである。5,200 m²の想定は 4 階建てである。

○市民

下呂病院跡地は川があつて橋があつて、消防署とも離れていて安全性の面で考えられたのか。

●総務部長

土砂災害警戒区域のイエローゾーンに含まれている地域、水が浸かるだろうと想定されている地域である。下呂大橋は耐震工事を進めており、動脈はしっかりと確保されている。また、下呂駅裏の高架下のポンプ改修も行い、下呂温泉病院の解体に合わせて谷の分流工事を行うという事で水害が抑えられると考えている。

○市民

平成 31 年度には 18 億円減少するという話であったが、当初は 30 億円減少であり、その後振興事務所があることによる緩和措置で 22 億円か 23 億円減少するということであった。なぜ 18 億円になったのか、まだまだ緩和されるのではないかとと思われる。

振興事務所の職員が 10 人前後ということで、現在部長級である振興事務所長がどうなるのか。

市民を代表して検討委員会で検討されたというが、市長が私的に選んだ委員であり市民が選んだ委員ではない。

●市長

色々な審議会があるが、多くの場合私が委嘱している。私的ではない。

●経営管理部長

30 億円の減少の内訳は、地方交付税によるものが約 25 億、税収にかかるものが約 5 億ということで表していた。今回、国の見直しにより 8 億 5 千万円くらい緩和されるということで約 18 億円となるというもの。

振興事務所の管理職は、組織の見直しの中で見直していく。これには人件費の抑制もあるので、そういう意味で部長や課長の数を減らすことになり、部課の統廃合を行っていく。振興事務所長は現在のところ部長職ではなく課長職に切り替えていきたいと考えている。

○市民

今まで団体との合併をした場合にはいろいろと条件をお願いをする。お願いした時には了解をいただいて合併をする。しかし末端は恩恵が少なくなる。振興事務所のお願いがあつたがそうなるように願います。

●市長

振興事務所の仕事として窓口業務はもちろんやる。そして振興事務所として大事な地域づくりの役割がある。金山だけでなく振興事務所と住民のみなさんと一緒になって地域づくりを進めていきたい。

以 上

会 場 金山市民会館

日 時 平成 27 年 1 月 20 日 (火) 午後 7 時～午後 8 時 30 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

組織を統一するならば、ソフト面でも検討をしてもらいたい。例えば会議についても TV 会議システムを導入し 1 回で済ませるなど、生産性を上げるツールを設計段階で検討してもらいたい。同時に、地方自治体での新しい利用技術を勉強して導入し生産性の向上をしてもらいたい。公の施設の見直しについても数値的な目標を設定していかないと達成できないと思う。

●総務部長

今日のような、説明会のように確かに TV 会議システムを導入すれば便利ですが、市長も言われたように顔と顔を合わせて行いたいという思いもあります。また公の施設の見直しについては、地域の皆さんへの影響が大きいので、慎重に扱っていきたい。

○市民

組織をスリム化していくならば仕事の仕方を変えることも必要である。いつまでに見直しをする？

●経営管理部長

公共の施設ですので、数値的な削減というわけにはいかない。市民の皆さんにご理解をいただきながら平成 28 年度までに進めていきたい。

●市長

合併前からの地域の特性を生かして建てられた建物もあり、両部長の言うように理解を得ながら進めてまいりたい。

また、TV 会議については、災害時などで活用しているが大変有効なもので、しかし、先ほども申したように TV 会議だけでは情報が錯綜するなど伝わりにくい事もある。顔と顔を向き合わせての対話を行いたい。

○市民

新庁舎ができれば、今の庁舎は、更地になるのか。

●総務部長

統合して、必要でなくなったものについては取り壊して売却しスリム化を図りたい。

○市民

金山以外の振興事務所の在り方についてですが、実際に新庁舎と同時に振興事務所の耐震などの整備を同時に進めるとなると、新庁舎の 9 億の負担以外にかかる。各振興事務所にかかる予算について知りたい。振興事務所の件について今後の説明がない。市民への負担はどうなるのか。

●総務部長

大変将来への見通しが暗い中で、市としては、税金をあげるとか市民の負担を大きくするとか、考えていない。

○市民

10 ページについて旧下呂病院の跡地の取得費用が含まれていないとあるが、取得については、さらに負担となるのか。

●市長

跡地の取得につきましては、基金を積み立てて、現在、下呂病院側と交渉中であるが近々結論を出したいと思っている。

○市民

金山の健康館について、振興事務所に引き上げという事であるが施設の今後の予定はあるのか。

●総務部長

職員がいなくなるということですが、必要な場合は健康館にいて住民サービスを行う。将来的には、活用について、検討していかなければなりません、現在のところそのまま活用していきたいと思っている。

○市民

先ほどのインターネット回線でのTV会議の話がありましたが、市長が対面という事で、皆さんとお話をする機会があって顔を見て一つ一つ対処していきたいという話を聞いて私は大変うれしく思った。TV会議で経費の削減という事で市長が賛成されたらがっかりしましたが、対面という事をいわれて大変感謝しております。

○市民

振興事務所の職員の人数は実際に何人くらいになるのか。どんなサービスが行われるのか。

●総務部長

振興事務所の方向性としては窓口業務と地域づくりの拠点として進めております。人数につきましても実情にあわせて見直しも行う必要があればします。

○市民

庁舎の一本化はもっと早くしてもよかった。できる限り早く完成させて引っ越してもらいたい。今後の話としては、新庁舎建設後、想定される災害に備えてもらいたい。災害に対して被害がゼロに近いような施設を建設してもらいたい。

●市長

庁舎につきましては合併時からの課題でありました。合併特例債の期限内に何とかと思っております。災害に対しましても、おっしゃられた通り、想定外という事を言っておられないので、県との連携も取りながら進めていきたい。

○市民

財政運営は非常に厳しいという事で、そういった中で今後の税収アップを何か考えているか。

●市長

新庁舎の建設については合併特例債を利用して将来への負担を減らすということがひとつあります。税収も非常に厳しいものがあります。人口が減っていく中で大きな問題であると考えています。第2次総合計画では大きな柱として人口問題に取り組んでいる。この5カ年が非常に大事な時期であると思っている。

○市民

人口減少がさらに拍車をかけて負の連鎖が続いている中で、人口減少に対する問題は非常に難しい計画であると思います。抜本的に考え直して持続可能な下呂市についてみんなで知恵を出し合っていかなければならないと思う。

●市長

地域づくりに力をいれて取り組んでいます。地域のつながりが生まれてきている中、地域のみなさんとともに住みよい地域を目指すことで、子供たちが暮らしやすい地域を築いて行くという事で進めている。

以 上

会 場 東公民館

日 時 平成 27 年 1 月 22 日（木） 午後 7 時～午後 8 時 15 分

説 明

説明者の紹介、副市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

現在の庁舎は、一本化した後はどうするのでしょうか。

●総務部長

基本的には一本化するのであれば切り離していくという点では、取り壊しまたは売却することでスリム化を図るべきかと考えています。

○市民

当然と思います。ありがとうございました。

○市民

市の庁舎整備方針については賛成ですが、東地区は広い地域で、今よりは悪くなるということはないということであれば、賛成です。お約束していただけますか。

●総務部長

今後、振興事務所についてもスリム化を図っていく予定です。ただし、振興事務所は窓口業務、地域づくりに特化することになるため、職員数は現在より減ることは確かとなります。しかし市民の支障がないように努めてまいります。本課が集約することで本課のある庁舎までの移動時間はかかることもありますが、なるべく問題については金山で解決できるよう体制を整備していきますのでご理解いただきたいと思います。

○市民

ご説明のとおり合併特例債が利用できるのであれば使うことで庁舎整備を行っていただければよいと思います。しかし、今後人口減少、少子高齢化が進みます。市職員は能力、実行力もあるし、知恵を出していただき、下呂、金山と言わず幅広く知恵を出して進めていただきたい。

●副市長

日常業務で知恵、マンパワーが大切だと感じています。権限移譲が進み、県から市への業務の移譲も進んでいます。昔はパスポートの申請は県庁まで行かなくてはできませんでしたが、それが下呂総合庁舎で行え、さらに現在は市役所で行えるようになりました。権限をもらうことで、知識やマンパワーが必要となり、職員も自己研鑽を進め、また県との交流も深めつつあります。中長期的な視野に立ち、皆様方のマンパワーもいただきたいと思います。能動的な発言、知恵をお借りしたい。我々はフルに働くことは間違いないので、今後ともご協力をお願いしたい。

●総務部長

同じ屋根の中で仕事をすすめることは、意義があるものと思います。

○市民

情報量、信頼感が違うと思います。

●副市長

情報というのは、一瞬で駆け巡るものですが、感性というものはそれとは違い、面対面で得るもので、それが仕事の相乗効果が図れるものであり、原点であると思います。我々もモチベーションを高めて参りたいと思います。また、農林、土木等においては、市民の皆さんからみれば「これは市の仕事、これは県の仕事」と分けることができるものではないと思います。

●総務部長

総合庁舎は広いからまだまだ活用すればいいのではという意見もあるかと思いますが、総合庁舎には農林、土木のほか保健所や水産試験場などのスペースもあり、傍から見るほど空いているわけではありません。市の農林土木部門が利用するだけで、おそらくいっぱいいっぱいになるのではないかと思います。

以 上

会 場 下原公民館ホール

日 時 平成 27 年 1 月 29 日（木） 午後 7 時～午後 8 時 35 分

説 明

説明者の紹介、副市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

基本的方針の 2 つ目、庁舎の一本化を目標としておきながら、農林と土木を県施設に移すとあるが、本当の理由は何か。災害対応では一本化がいいと言いながら、農林・土木は県と連携するとある。災害対応は一本化が良いと思う。

●副市長

市民の庁舎整備検討委員会において、一本化を目指す中で付言として下呂総合庁舎の利用を合わせて検討すべきとの報告を受けた。報告を受けて市長が熟慮した結果である。市長が検討委員会の意見を重視した結果であると認識している。

○市民

一本化とはどのへんが一本化なのか。県の組織が見直されてなくなってしまうことがあるのではないか。

●副市長

今後、県がどのような組織再編をして、将来的にどのようなになるかは分からない。

過去から現在に至る動きとして、県事務所の機能が小さくなり、高山に集約されて益田出張所という位置づけになった経緯がある。ただし、農林・土木事務所は過去から現在まで変わっていない。

総合庁舎はこれらの経緯で縮小してスペースができたことは事実であるが、思ったほどのスペースはない。

機能的には一本化から逸脱した形となるが、逸脱した中にも連携強化を見出した。

●総務部長

これまでの説明会の中で質問があり、説明した部分について補足する。

財政厳しい時に 23 億かけて整備する必要があるのか、耐震したほうが良いのはいかという意見を聞く。最低限の耐震とある程度の改装工事を行った場合、下呂庁舎で約 4 億円、萩原庁舎で 1 億 3 千 6 百万円、星雲会館は一部耐震があるので、耐震ない部分で 1 億 7 千万円と、庁舎で約 7 億円となる。

また、下呂温泉病院跡地は大変危険なところでないかという意見がある。ここは、阿寺断層帯にある。ハザードマップではイエローゾーンになっている。飛騨川浸水区域でもある。山手側には芦谷が流れているが、旧下呂温泉病院の解体に合わせて谷の分流工事を行うという事で水害が抑えられると考えている。下呂大橋は耐震工事を進めている。

○市民

建設費用 19 億 8 千万円は今の時点の金額か。この範囲内ということか。

●総務部長

とりあえずの試算である。建設物価によって変わってくる。

建物は 5,200 m²としているが、設計にあつては市民のワークショップを通して、建物の中身も変わり、建設費も変わってくる。消費税は 10% でみている。

○市民

庁舎一本化は大事であるが、振興事務所が充実してくれば何の不自由も感じない。職員の人数を堅持して頂いて振興事務所の機能が低下しないことを要望する。

金山振興事務所に健康館にある地域包括支援センターが来るという事であるが、健康館はどうなるのか。

●副市長

住民票の発行とか、健康とか住民生活に必要な機能はしっかりと確保し、水道などの緊急対応を行う。

また、市民のみなさんと協働で進めていくという地域力を新しい機能としていく。

●総務部長

出来る限り市民サービスの低下しないように努力しなければいけないが、組織の見直しは本課だけでなく振興事務所も同じであり、今の職員数をこのまま維持ということは難しい。これまで振興事務所が主体となっていた事務を本課で行い、振興事務所はセーフティネット業務としていく。地域づくり業務を新たに加えていく。

健康館の職員は振興事務所に来る。健康館には職員が常駐しないことになるが、保健指導とかは健康館を使って、職員が出向き業務を行うことになる。

○市民

耐震について、今の計画では、どれくらいの震度に耐えうるのか。

●総務部長

Is 値が 0.6 あれば耐震性があると言われるが、市役所建物については 0.75 を確保する。震度 6 から 7 程度で Is 値 0.6 以上あれば、倒壊又は崩壊する危険性が低いとある。

○市民

新庁舎整備には異論がない。

新庁舎整備の後の話として、金山病院跡地問題や、金山振興事務所 1 階だけが振興事務所機能となっており、さみしい。学校統廃合の問題もあり、そういうところの対応も考えていただきながら進めてほしい。

●副市長

地域それぞれで色々な課題がある。庁舎ができて地域が衰退したらいけない。

これをやったら短期間で変わってくるというものはない。少子化ということであれば、子育て環境を高めるということで色々な支援、企業への積極的な支援、学校問題であれば、耐震化に合わせて統廃合という話をしたが、地域の思い、事情があり統廃合の選択がなくなったが、環境整備をやりながら今のところ学校施設を維持していきたい。

●総務部長

公の施設の見直しについて、旧町村がそれぞれ持っていた施設をそのまま維持していくことは財政的に難しい。下呂市全体を見渡し、バランスを考えながらスリム化を図っ

ていく。施設の中には必ず市がやらなければならないものばかりでなく、民間でできるものについては民営化を進め、同じようなところで同じような機能の施設があればどちらかを選択していく。

●**経営管理部長**

11 月広報げろで総合計画の骨子を掲載している。総合計画では3つの重点プロジェクトを取り組んでいきたい。

国において地方創生を掲げ、人口対策として都市から地方へ人口を動かすということで財政支援がされる。今回補正予算を組みながら、今後5カ年で地域の人口減少に対する計画を平成27年度に作り進めていく。市民のみなさんからご意見をいただきたい。

以 上

会 場 清流ふれあい会館

日 時 平成 27 年 2 月 12 日 (木) 午後 7 時～午後 8 時 45 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

一昨年は、庁舎を一本化するということで最初から最後まで説明されてきた。住民から県の総合庁舎があるのはでないかという意見がある中で、それは考えていないとの意見であった。検討委員会でも庁舎の一本化で検討されてきたと聞いている。ふたを開けてみると一本化ではなく分庁方式である。おかしいのではないか。一本化の一部変更というが一部変更ではない。

下呂温泉病院跡地は当時安全だという話であったが、阿寺断層が通っていると聞いた。12 月議会では、レッドゾーンではなくイエローゾーンであり安全であるということを行っていたが、イエローゾーンでも危険には変わらない。

また、下呂駅には近いがアンダーパスがあり、浸水した経緯もある。また一方通行の踏切もある。交通アクセスに良くない。

●市長

庁舎整備検討委員会で 10 回の議論を重ねていただき、旧下呂温泉病院跡地という報告を受けるとともに、付言として下呂総合庁舎を最大限活用すべきという報告も受けている。建設コストが低く済むという事と、県との連携が強化でき業務もスムーズにできるということである。それを踏まえて方向性を出した。

阿寺断層には免震、耐震構造で対応していかなければならない。アンダーパスの冠水があったが、芦谷の分流工事を行う。

●総務部長

下呂温泉病院跡地に来る方法として、踏切から来るルート、下呂大橋から来るルート、アンダーパスから来るルートがある。

また、土砂災害警戒区域のイエローゾーンに含まれている地域、飛騨川の増水によって水が浸かるだろうと想定されている地域である。下呂大橋は耐震工事を進めており、動脈はしっかりと確保されている。踏切はバスの路線にもなっており、車の通行には支障がない。

○市民

一本化は理解できる。位置は理解できない。市長のマニフェストとしてお客を呼ぶとしてきた。下呂温泉病院跡地は下呂温泉の中心地であるが、庁舎では観光客を呼べない。庁舎は職員が通うだけであり、お客が来るわけではないのでどこでもよい。

●市長

平成 22 年に観光計画を策定しているが、その間、小坂の滝めぐり、馬瀬の鮎・自然公

園、金山の筋骨めぐりとお客様が増えて努力が実ってきている。下呂の観光は下呂だけではない。それぞれの地域の活動の努力が実ってきている。

旧下呂温泉病院跡地は中心地ではあるものの、意見の中には庁舎だけでなく複合施設もあるのではないかといいものもある。

また、庁舎は市民が中心のものであり、職員のものではない。

○市民

新築は時が早いと思う。下呂市の人口は、平成17年で38,000人、平成27年度では34,000人、あと10年すると30,000人を切り、あと5年すると27,000人くらい、20年すると25,000人という予測がある。生産年齢を増やす施策や少子化対策を行い、下呂市が元気になってからそれに見合った庁舎を作ればいい。

羽島駅、岐阜県庁は当時は田んぼの真ん中だったのに現在は発展している。庁舎を造る場合は、下呂市の郊外に作りその周辺を発展させることが下呂市の発展につながる。

●市長

今考えられるベターな方法は、有利な合併特例債を活用できることであり、建設は今であると考えている。

子育て支援策をいろいろと行ってきたが、人口減少問題については非常に残念である。雇用の面では市内に頑張っている企業もある。地道な努力を続けていきたい。

●副市長

市長は一本化で話を進めたものである。検討委員会の中で報告書が出され、それも踏まえて市長が判断したものである。農林・土木というハード系の事務は国・県・市との強いパイプが必要となってくる。一つの例として農林の補助金である。同じ箇所において連携することが非常に良い。土木については道路の管轄が違うが、同じ道路であるので早急な対応が可能である。福祉、健康といったソフト部門は国・県・市というつながりはあるが、市になって権限移譲がされ直接市が事務をできるようになった。

県庁、羽島駅は確かに田んぼの真ん中であって、現在発展していることは事実であるが、その反面、色々な複合要素はあるにせよ、結果として柳ヶ瀬が疲弊してきたことは逆効果としてあるのかもしれない。

複合的な庁舎もある。ただ単に庁舎が郊外にあることがいいとはいえないのではないかと考える。

○市民

人口が少なくなる、財源が不足する中で、新築をするのか。庁舎整備の前に少子高齢化の問題に取り組むべきでは。

組織をスリム化して県総合庁舎に全て入るのがいいのでは。

●市長

地方創生や第2次総合計画において人口減少対策を柱としている。

●総務部長

下呂総合庁舎は耐震が行われたが、面積は4,200㎡くらい。農林・土木部門で40名くらい入ると一杯である。下呂総合庁舎で一本化しようとする5,000㎡くらいの建物が必要となり、そのための土地購入の費用もかかる。

○市民

中津川では豊田市への地下鉄であったり、名古屋市への鉄道であったり、加子母へ電車を敷こうであったり夢のある話がある。下呂温泉病院跡地のような狭い土地に建てるのではなく、将来を見越して広い土地に建設して、アクセスを良くして発展させるといったことが良いのではないか。

馬瀬は限界集落である。馬瀬に来たら光熱水費が要らないなど、先駆けたことを行い、人を呼び込むことをやってもらいたい。

●市長

下呂市の92パーセントは山林である中で土地を求めることが可能かどうかということもあるが、山林の中でコンパクトにやっていくということと、基金があるので土地購入できるということで財政的にも良い。

名古屋との交流も行っているが、馬瀬地域の良さは知っていただく。交流人口を増やしながら、地域の取組みに支援していきたい。

○市民

馬瀬地域については少子化が悩みである。力を入れていただきたい。

馬瀬村では岩屋ダム補償により1億円くらいあり、基金として馬瀬地域で使えるとなっていたわけであるが、どういった使い道になっているのか。大雪による倒木で馬瀬地域の停電があったわけだが、環境整備をしていただくことができないか。

●経営管理部長

基金は10年間暫定ということで運用している。目的として水・森林保全となっている。

馬瀬地域限定ということもあるので、今後の使い道について検討している。

●副市長

馬瀬地域限定の基金としてある。倒木もあったわけであるが、電線沿道の立木処理ができないものかと考えている。

○市民

3月議会で否決された場合、30年度の期限ということでぎりぎりのスケジュールであるが、新築で進められるのか。候補地を再検討することとなるのか。下呂総合庁舎への移設はどうなるのか。

●市長

3月議会で議決されなければ、私の方向性はなしになる。萩原庁舎も下呂庁舎の老朽化はしているので、何らかの対処をしていかなければならない。

以 上

会 場 南部研修センター

日 時 平成 27 年 2 月 13 日（金） 午後 7 時～午後 8 時 40 分

説 明

説明者の紹介、市長の挨拶後、総務部長による新庁舎整備についての説明を行い、質疑を受けた。

○市民

もうスケジュールができて、この意見で変更する時間はないと思うが、今の現在地に建てる場合、地震や災害時の交通の麻痺を防ぐために川西線の整備をしてもらいたい。そのことについてどうでしょうか。

●市長

スケジュールについてですが、3月議会で議決が得られた場合のスケジュール案ですのでご理解ください。川西線の整備につきましてですが、アンダーパスの冠水については、原因の一つと思われる芦谷という谷の水路の分流をする工事の計画もしております。河川についても、飛騨川については何年か前に土木で河川を下げるという工事をしていただいております。川西線は大変重要な道路ですので、整備について県にお願いをしていきたいと思っております。

●総務部長

旧下呂温泉病院の跡地に建てる際は、県との連携をして道路整備・防災対策をすすめていきたいと思っております。交通の要となりうる下呂大橋は現在すでに耐震工事も行っています。

○市民

下呂小坂線の事を思うと、他に土地はなかったのかと思います。雨量規制などもありますので、防災面で本当に大丈夫かと心配している。今更だが、交通に対する危険な位置づけではないかと、安全面には適さないのではないかと感じています。

●市長

現在、雨量規制は解除になっております。それから、場所の問題ではありますが、旧下呂病院跡地は、基金を積み立てており、新たな購入費を組む必要はなく、コストを抑えられる場所です。地震に関しましては、阿寺断層というものがありますが、災害対策本部としての機能を残す必要がありますので、構造を免震、耐震を行いたいと思っております。

●副市長

県道下呂小坂線については、改良について引き続き県へ強くお願いしていきたい。

○市民

当初は一本化ということで進んでいたと思うが、永久的なのか、将来的には、本庁舎をどのように考えているか。

●副市長

何十年先の将来について、どのようになるかということは、このような時代のなかで非常に難しいと思っています。

○市民

今後、この馬瀬地区がどうなるのかという事をお聞きしたい。また振興事務所のあり方で、一本化すると、振興事務所にはある程度の権限がないような気がします。そのようなやり方がうまくいくのかどうかという事が気になります。庁舎をどこに建てるかというようなことではなく、合併からの十年を反省し、やってもらいたい。思いをぜひくんでいただいて、市民のために決断をお願いしたい。

●市長

合併以来、おっしゃるとおり、検証が必要だと思います。また、今後の話をさせていただきますと、このままでいいのかという部分になりますが、今、それぞれの地域が活性化するために地域づくりを進めています。馬瀬の資源を生かした交流人口を増やすことにも力を入れていくことも大切だと思っています。どの地域でも同じようにとりくんでいる中で、これから下呂市全体を売り出していくという事が大切になってくると思っています。

○市民

流動的ではなく、固定人口についても振興事務所を中心に取り組んでもらいたい。

●市長

皆様のご意見ご提案をいただきながら、地方創生の戦略を立てていかなければならないと思っています。

○市民

反対の意見が多いと思うが、過半数を超えなかった場合、どうするかも説明していかなければならないと思う。

●市長

将来世代に、負担を残したくないと思います。そのために、この合併特例債が使えるこの時期に、今やるべきこととして進めております。

○市民

馬瀬川工事の際は、施工前にヒアリングをしてもらいたい。土木と農林が、県総合庁舎に入るという事で、勝手な話ですがすごく助かると思っている。

●市長

今おっしゃられたお話は、伝えます。自然を守ることと、人の命を守ることが両方ありますと、なかなか難しい事だと思います。

○市民

馬瀬特別基金の活用をしてもらって、ぜひ整備や雪害に有効活用してほしい。

●副市長

被害はひどいという事は認識しておりますので、治山等についても、いろんな現状をお知らせいただきご協力をお願いいたします。

以 上